

Sun ONE Application Server 7 リリースノート

バージョン 7、Update 2

Part No. 817-5747-10

2004 年 1 月

このリリースノートには Sun™ Open Net Environment (ONE) Application Server 7, Update 2 のリリース時における重要な情報が含まれています。拡張機能、インストール時の注意、既知の問題、および最近見つかったその他の問題点が記載されています。Sun ONE Application Server 7, Update 2 を使用する前に、このリリースノートと関連マニュアルをお読みください。

本書の構成は次のとおりです。

- [Sun ONE Application Server 7 の新機能](#)
- [Sun ONE Application Server 7 のプラットフォーム](#)
- [マニュアル](#)
- [ユーザー補助機能](#)
- [要件と制限事項](#)
- [アップグレードに関する注意事項](#)
- [解決済みの問題点](#)
- [既知の問題と制限事項](#)
- [問題の報告方法](#)
- [詳細情報について](#)
- [改訂履歴](#)

Sun ONE Application Server 7 の新機能

Sun ONE Application Server 7, Update 2 の新機能については、『Sun ONE Application Server 新機能』を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv?l=ja>

Sun ONE Application Server 7 のプラットフォーム

Sun ONE Application Server 7, Update 2 製品でサポートされるプラットフォームについては、『Sun ONE Application Server プラットフォームの概要』を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv?l=ja>

マニュアル

Sun Microsystems 製品の全マニュアルは、次の URL から参照できます。

<http://docs.sun.com/>

この節では次の項目について説明します。

- [Sun ONE Application Server 7 のマニュアル](#)
- [関連マニュアル](#)
- [ユーザー補助機能](#)

Sun ONE Application Server 7 のマニュアル

Sun ONE Application Server 7, Update 2 製品には、完全なマニュアルセットが付属しています。Sun ONE Application Server 7 のマニュアルのうち、Update 2 で更新されたマニュアルの Part No. は変更されています。次のリストの中では、これらのマニュアルタイトルのうしろには、(改訂)と記述しています。Update 1 と Update 2 で変更のないマニュアルには、同じ Part No. が付いています。

注	重大な問題が生じた際は、マニュアルを改訂することもあります。改訂したマニュアルは、このサイトに登録されます。最終更新日は、HTML 版マニュアルの著作権情報と一緒に表示されます。
---	---

Sun ONE Application Server 7, Update 2 のマニュアルは、次の URL から参照できます。

<http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv?l=ja>

Sun ONE Application Server の各マニュアルの Part No. と概要を次に示します。

- 『Product Overview』 - (Part No. 817-2166-10) Sun One Application Server 7 について説明します。製品の各エディションで利用できる機能についても説明します。

- 『Server Architecture』- (Part No. 817-2167-10) 図表を使用しながら、サーバーアーキテクチャについて説明します。さらに、Sun ONE Application Server アーキテクチャの利点についても説明します。
- 『What's New』- (Part No. 817-2165-10) 企業、開発者、および運用向けの、Sun ONE Application Server 7 の新機能について説明します。
- 『プラットフォームの概要 (改訂)』- (Part No. 817-3650-10) サポート対象のオペレーティングシステム、JDBC ドライバおよびデータベース、Web サーバー、ディレクトリサーバー、ブラウザ、関連するソフトウェアパッケージを一覧します。
- 『Getting Started Guide』- (Part No. 817-2170-10) Sun ONE Application Server 7 の基本的な使用方法について説明します。初期開発を行う開発者向けの内容ですが、製品評価の担当者が参考にできる情報も含まれています。
- 『Installation Guide (改訂)』- (Part No. 817-3651-10) Sun ONE Application Server とそのコンポーネント (サンプルアプリケーション、管理インタフェース、Sun ONE Message Queue) のインストール方法について説明します。
- 『Migrating and Redeploying Server Applications』- (Part No. 817-0603-10) 新しい Sun ONE Application Server 7 プログラミングモデルに従ってアプリケーションを移行する方法について説明します。特に、iPlanet™ Application Server 6.x、Netscape Application Server 4.0 からの移行について詳しく取り上げます。移行例も参照できます。
- 『Developer's Guide』- (Part No. 817-2171-10) 開発者向けマニュアルの中で最も重要なマニュアルです。サーブレット、Enterprise JavaBeans™ (EJB™)、JavaServer Pages (JSP)、各種 J2EE コンポーネントについて規定した Java のオープンスタンダードモデルに準拠し、Sun ONE Application Server 上で動作する J2EE アプリケーションの基本的な作成方法について説明します。これらの方法については、次の項目で説明します。J2EE アプリケーションの設計、セキュリティ、配備、デバッグ、ライフサイクルモジュールの作成方法などについて取り上げます。Sun ONE Application Server のさまざまな用語について説明している用語集も含まれています。
- 『Developer's Guide to Web Applications』- (Part No. 817-2172-10) J2EE アプリケーションにおけるサーブレットや JavaServer Pages (JSP) の使用方法と、SHTML および CGI の使用方法について説明します。結果キャッシュ機能、JSP のプリコンパイル、セッション管理、セキュリティ、配備などについて取り上げます。
- 『Developer's Guide to Enterprise Java Beans Technology』- (Part No. 817-2175-10) Sun ONE Application Server 環境におけるエンタープライズ Bean の開発および配備について説明します。コンテナ管理持続性、読み取り専用 Bean、エンタープライズ Bean に関連付けられた XML ファイルや DTD ファイルなどについて取り上げます。
- 『Developer's Guide to J2EE Features and Services』- (Part No. 817-2177-10) データベース接続 (JDBC)、Java ネーミングおよびディレクトリインタフェース (JNDI)、Java トランザクションサービス (JTS)、Java メッセージサービス (JMS)、JavaMail といった J2EE の機能について説明します。

- 『Developer's Guide to NSAPI』 - (Part No. 817-2177-10) NSAPI プラグインの作成方法について説明します。
- 『Developer's Guide to Web Services』 - (Part No. 817-2174-10) Sun ONE Application Server 環境における Web サービスの開発および配備について説明します。
- 『Developer's Guide to Clients』 - (Part No. 817-2173-10) Sun ONE Application Server 7 の J2EE アプリケーションにアクセス可能な Application Client Container (ACC) クライアントの開発および配備について説明します。
- 『Administrator's Guide (改訂)』 - (Part No. 817-3652-10) 管理者向けマニュアルの中で最も重要なマニュアルです。管理インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使った Sun ONE Application Server サブシステムと各種コンポーネントの設定、管理、配備について説明します。Sun ONE Application Server のさまざまな用語について説明している用語集も含まれています。
- 『Administrator's Configuration File Reference』 - (Part No. 817-2178-10) `server.xml` ファイルをはじめとする Sun ONE Application Server の設定ファイルの内容について説明します。
- 『Administrator's Guide to Security』 - (Part No. 817-2179-10) Sun ONE Application Server 運用環境のセキュリティの設定および管理について説明します。セキュリティ、証明書、および SSL/TLS 暗号化の概要を説明します。また、HTTP サーバーベースのセキュリティについても説明します。
- 『J2EE CA SPI Administrator's Guide』 - (Part No. 817-2254-10) Sun ONE Application Server 環境の JCA SPI 実装機能の設定および管理について説明します。管理ツール、プーリングモニター、JCA コネクタの配備、サンプルコネクタとサンプルアプリケーションなどについて取り上げます。
- 『Performance Tuning Guide』 - (Part No. 817-2180-10) Sun ONE Application Server を使ってパフォーマンスを改善する方法と、なぜそうする必要のあるかについて説明します。
- 『Error Messages Reference』 - (Part No. 817-2182-10) Sun ONE Application Server の全エラーメッセージについて解説します。
- コマンド行インタフェースのマニュアルページ - コマンド行インタフェースで実行する全コマンドについて解説します (XML 形式、英語のみ)。
- ユーティリティのマニュアルページ - Sun ONE Application Server の全ユーティリティコマンドについて解説します (XML 形式、英語のみ)。
- 管理インタフェースのオンラインヘルプ - Sun ONE Application Server のグラフィカルな管理インタフェースのコンテンツ型オンラインヘルプです。
- Sun ONE Studio 4 Enterprise Edition for Java with Application Server 7 チュートリアル - Sun ONE Studio 4 を Sun ONE Application Server とともに使用方法について説明します。
- Sun ONE Application Server Studio のオンラインヘルプ - Sun ONE Studio 4 を統合した Sun ONE Application Server のコンテンツ型オンラインヘルプです。

関連マニュアル

ほかの Sun ONE 製品のマニュアルが、Sun ONE Application Server のマニュアルで参照されている場合があります。

Sun ONE Message Queue マニュアル

Sun ONE Application Server に統合された Sun ONE Message Queue (iPlanet Message Queue) サブシステムには、独自のマニュアルセットが存在します。次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1.s1msgqu?l=ja#hic>

Sun ONE Studio 4 マニュアル

Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition 製品は、Sun ONE Application Server をバンドルしており、独自のマニュアルセットがあります。次の URL を参照してください。

- Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition マニュアル

<http://docs.sun.com/db/coll/790.3>

- その他の Sun ONE Studio 4 マニュアルも参考にしてください。

<http://jp.sun.com/products/software/tools/jde/documentation/index.html>

ユーザー補助機能

Sun ONE Application Server 製品のマニュアルは、補助機能を使って読むことができる形式で提供されます。

Sun ONE Application Server は、製品を見やすく、使いやすい形式にカスタマイズする補助機能を提供しています。次のような機能があります。

- ニーモニックおよびキーボードのショートカット
- カスタマイズ可能なフォント
- カスタマイズ可能な色
- カスタマイズ可能なツールバー
- カスタマイズ可能なスタイルシート

注 Solaris™ オペレーティングシステムでは、ウィンドウスタイルマネージャを使って画面の動作を設定します。ニーモニックを使用している場合は、画面の動作を「クリックでウィンドウをアクティブに」に設定します。これに設定していないと、ニーモニックがエラーになる場合があります。

Sun ONE Application Server の HTML オンラインヘルプを変更するには、ヘルプディレクトリに保存されているスタイルシートを編集します。

```
server_root/lib/install/applications/admingui/adminGUI_war/help
```

管理サーバーを再起動して、変更を有効にします。

要件と制限事項

Sun ONE Application Server 7, Update 2 製品でサポートされるプラットフォームについては、『Sun ONE Application Server プラットフォームの概要』を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv?l=ja>

この節では次の項目について説明します。

- [プラットフォームの要件](#)
- [Solaris パッチ](#)
- [Solaris x86 の制限事項](#)

プラットフォームの要件

Sun ONE Application Server 7, Update 2 の要件を次の表に示します。

表 1 Sun ONE Application Server のプラットフォーム要件

オペレーティングシステム	アーキテクチャ	最小メモリー	推奨メモリー	最小ディスク容量	推奨ディスク容量
UNIX					
Sun Solaris 8 または 9 SPARC 版	32 ビット / 64 ビット	256M バイト (Sun ONE Studio を使用しない場合)	512M バイト	250M バイト	500M バイト
Solaris x86 バージョン 9	32 ビット	512M バイト (Sun ONE Studio を使用する場合)			
Red Hat Linux 7.2 または 7.3 Red Hat Enterprise Linux 2.1					
Microsoft Windows					
Windows 2000 Advanced Server、SP2 Windows 2000 Server、SP2 Windows 2000 Professional、SP2 Windows XP Professional	Intel 32 ビット	256M バイト (Sun ONE Studio を使用しない場合)	256M バイト (Sun ONE Studio を使用しない場合)	250M バイト	500M バイト
		256M バイト (Sun ONE Studio を使用する場合)	512M バイト (Sun ONE Studio を使用する場合)		

Solaris パッチ

Solaris 8 システムには、次の URL の「パッチサポートポータル」から「推奨 & セキュリティパッチ」に記載されている Sun 推奨パッチクラスタをインストールする必要があります。

<http://jp.sunsolve.sun.com/>

Solaris 8 システムには、パッチ番号 109326-06、108993-23、およびパッチ番号 110934 のパッチを必ずインストールしてください (全リビジョン対象。パッケージベースのインストールのみ)。これらの必須パッチは、インストーラによってチェックされます。これらのパッチがインストールされていないと、Sun ONE Application Server をインストールすることも実行することもできません。最新の推奨パッチクラスタには、これらのパッチが最初から含まれています。

Solaris x86 の制限事項

- Sun ONE Studio プラグイン - Sun ONE Studio は Solaris x86 プラットフォームでは使用できないので、Sun ONE Studio プラグインはこのリリースには含まれません。
- Web サーバー (逆プロキシ) プラグイン - この逆プロキシプラグインは、Apache Web サーバーだけでサポートされ、Sun ONE Web Server ではサポートされていません。このプラグインをサポートしている Sun ONE Web Server を Solaris x86 プラットフォーム上で使用できないためです。
- Solaris のサポート - Solaris x86 リリースは、Solaris 9, Update 2 以降だけでサポートされています。それ以前のバージョンの Solaris ではサポートされていません。
- 評価版インストール - Solaris x86 プラットフォーム用の評価版インストールはありません。

アップグレードに関する注意事項

以前のバージョン Sun ONE Application Server 7 から Sun ONE Application Server 7, Update 2 にアップグレードする場合は、ダウンロードサイトからアップグレードのアーカイブを選択します。Sun ONE Application Server, Update 2 にアップグレードするための詳細な手順については、次の URL にある『Sun ONE Application Server Installation Guide』に記載されています。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1.asse>

解決済みの問題点

ここでは、顧客から報告された問題のうち、Sun ONE Application Server 7, Update 2 で解決されているものを一覧表示します。

ID	要約
4761365 4894675	Web サーバー (逆プロキシ) プラグインが SSL ポート番号で動作しない
4777526	RMI コンパイラがエラー {0} を返す
4797642	データベースビットフィールドをブール値 <code>false</code> と比較すると、 <code>JDOQueryException</code> が発生する
4808573	EJBQL の検索メソッドまたは選択メソッドにインタフェースパラメータを使用すると、データが壊れる
4812839	Web アプリケーションを経由して要求をディスパッチすると、セッションが無効になる
4817526	コンテナリソースを要求スレッドの外部で使用できない
4818753	RMIC の配備に失敗する
4825735	@ 記号を含むユーザー名が IIOP 認証時に正しく解析されない
4826647	JVM 設定に特殊な文字列が含まれる場合、 <code>asadmin</code> コマンドで許可されない
4826679	<code>javax.servlet.include.XXX</code> 属性が JSP に正しく設定されない
4827101	<code>query-params</code> はオプションなのに、CMP1.1 検索メソッドに定義する必要がある
4839736	<code>HttpSession.setMaxInactiveInterval</code> が予期した動作をしない
4843119	<code>javax.rmi.CORBA.UtilClass</code> を変更すると、 <code>rmi.MarshalExceptions</code> が発生する
4845954	RMI クライアントが Sun ONE Application Server 7 と通信できない
4849638	<code>capture-schema</code> ユーティリティがスキーマを取り込む動作が安定していない 注: この問題が起きないようにするには、Oracle の Web サイト http://otn.oracle.com/software/tech/java/sqlj_jdbc/htdocs/jdbc817.html から <code>classes12.zip</code> をダウンロードしてください。このパッチは、Oracle 9i のバグ ID 1725012 のパッチにもなっています。
4852757	アプリケーションを配備できない。管理インタフェースに明確なエラーメッセージが出力されない
4876121	フィルタの <code>WrappedResponse</code> オブジェクトが要求ディスパッチャーによって使用されない
4882279	Microsoft Windows 上で Java の最大ヒープサイズ (<code>-mx vm</code> オプション) を 400M バイト以上に設定して使用している場合、Sun ONE Application Server 7, Update 1 にアップグレードすると、Application Server インスタンスの起動に失敗する

ID	要約
4883580	引用符で囲んだ HTTP ヘッダの値が Tomcat で正しく処理されない
4918152	要求パラメータを解析するときに、「%」が常にエスケープシーケンスとして処理される

既知の問題と制限事項

この節では、Sun ONE Application Server 7, Update 2 の既知の問題とその回避方法について、次の項目別に解説します。

注 問題の説明にプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに当てはまります。

この節は次の項目から構成されています。

- [インストールとアンインストール](#)
- [サーバーの起動とシャットダウン](#)
- [データベースドライバ](#)
- [Web コンテナ](#)
- [EJB コンテナ](#)
- [コンテナ管理持続](#)
- [Message Service とメッセージ駆動型 Beans](#)
- [Java トランザクションサービス \(JTS\)](#)
- [アプリケーションの配備](#)
- [appclient スクリプト](#)
- [ベリファイア](#)
- [設定](#)
- [配備記述子](#)
- [監視](#)
- [サーバーの管理](#)
- [Sun ONE Studio 4 プラグイン](#)

- サンプルアプリケーション
- ORB/IIOP リスナー
- 国際化 (i18n)
- マニュアル

インストールとアンインストール

この節では、インストールとアンインストールに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4403166	<p data-bbox="317 628 1336 690">Microsoft Windows では、パッケージ、パス、またはアプリケーションの名前が 255 文字より長いと、アプリケーションの配備に失敗する</p> <p data-bbox="317 708 1336 795">Microsoft Windows では、JDK™ の制約により長いパッケージ名やパス名は使用できません。配備用ツールは、配備中にアーカイブからクラスファイルを抽出しようとしています。展開したときの名前が 255 文字より長い場合、抽出は失敗します。</p> <ul data-bbox="317 812 1336 888" style="list-style-type: none"> • 長いアプリケーション名の例 servlet_jsh_HttpServletRequestWrapper.ear などの J2EE アプリケーション名 • 長いパッケージ名の例 このサーブレットが次のようなパッケージに存在する場合 servlet_jsh_HttpServletRequestWrapper_1¥servlet_jsh_HttpServletRequestWrapper_servlet_war¥WEB-INF¥classes¥tests¥javax_servlet_http¥HttpServletRequestWrapperHttpServletRequestWrapperConstructorTestServlet.class • 長いパス名の例 Sun ONE Application Server が、drive:¥Sun¥ApplicationServer にインストールされている場合 <p data-bbox="317 1218 396 1246">解決法</p> <p data-bbox="317 1263 711 1291">次のいずれかの解決法を選択します。</p> <ol data-bbox="317 1308 1336 1489" style="list-style-type: none"> 1. インストール中に短いディレクトリ構造を作成します。たとえば、デフォルトの drive:¥Sun¥Appserver7 の代わりに drive:¥App を使用します。 2. create_instance コマンドを使用して、インスタンスの名前を短いものに変更します。たとえば ¥instance1¥domain1¥ を ¥i¥d などに変更します。 3. 短いパッケージ名、パス名およびアプリケーション名にします。

ID	要約
4687768	Solaris setup-SDK/JDK で、X ウィンドウを使用しないマシンにコマンド行モードでインストールしようとするとエラーが発生する X ウィンドウライブラリがない Solaris システムでは、Sun ONE Application Server インストーラを実行できません。これは、コマンド行モードを使用する場合も同じです。SDK または Webstart の設定ウィザードのインストールフレームワークで使用される AWT オブジェクトを初期化しようとすると、インストーラから <code>java.lang.UnsatisfiedLinkError</code> がスローされます。 解決法 <ol style="list-style-type: none">1. X ウィンドウのサポートパッケージをインストールしてください。このパッケージは、Sun ONE Application Server のインストールが完了したら削除します。2. <code>pkgadd</code> コマンドで Sun ONE Application Server パッケージをインストールします。次に、<code>asadmin</code> コマンドで初期ドメインを作成します。
4719600	インストール時に警告メッセージが表示される インストール時に、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。次に例を示します。 <pre>WARNING: Couldn't flush system prefs: java.util.prefs.BackingStoreException:Couldn't get file lock. WARNING:Could not lock System prefs.Unix error code -223460600.</pre> 解決法 これらの警告は無視してください。あるいは、システム設定ディレクトリ (通常は <code>/etc/.java/.systemPrefs</code>) を作成します。システム設定ディレクトリは、通常、JDK インストールスクリプトによって自動的に作成されます。
4737663	Solaris 環境では、パッケージベースの製品と通常の製品を両方インストールすると競合が発生する パッケージベースの製品 (Solaris 9 バンドル版) とインストーラベースの通常の製品を両方インストールすると、競合が発生します。これらの製品は同一の Sun ONE Message Queue ブローカを共有します。このため、ドメイン名やインスタンス名が一意でないと、2 番目のドメインまたはインスタンスを起動するときに次のようなメッセージが表示されます。 <pre>SEVERE:JMS5024: JMS サービスのスタートアップに失敗しました SEVERE:CORE5071: 初期化中にエラーが発生しました</pre> デフォルトのドメイン名とインスタンス名が両製品に共通であるという点には、特に注意が必要です。 解決法 『Sun ONE Application Server Administrator's Guide』の説明に従ってください。

ID	要約
4742038	インストールディレクトリの名前に英数字以外の文字が含まれていると、Sun ONE Application Server が起動しない インストールディレクトリの名前に英数字以外の文字 (#、空白文字など) が含まれていると、Sun ONE Application Server が正常に起動しません。この場合、サーバーログファイルは作成されません。Sun ONE Application Server のインストールディレクトリの名前に使用できる文字は、英数字、ダッシュ (-)、下線 (_) のみです。インストール作業の一環として既存の Java 2 SDK ディレクトリを指定するときも、同じルールが適用されます。 解決法 インストール時には、英数字、ダッシュ、下線の文字のみ使用してディレクトリ名を指定してください。
4742828	サイレントインストーラがユーザーのアクセス権をチェックしない 対話型インストーラ (GUI または コマンド行) は、ユーザーのアクセス権が適切であるかどうかをチェックします。たとえば、Microsoft Windows へのインストールでは admin ユーザー、Solaris へのパッケージインストールでは root ユーザーのアクセス権が必要です。しかし、サイレントインストールでは、このチェックが行われません。パッケージをインストールするアクセス権 (Solaris)、またはサービスを作成するアクセス権 (Microsoft Windows) がないと、インストールは途中で失敗します。 解決法 サイレントインストールは、適切なアクセス権を持つユーザーが実行してください。
4741190	Solaris へのインストール時、JDK_LOCATION 値に以前のバージョン (Java 2 SDK 1.2 以前) のソフトウェアの格納場所を指定してもインストールが中止されない Sun ONE Application Server 7 には、バージョン 1.4.0_02 以上の Java 2 SDK が必要です。しかし、Solaris 上では、既存の Java 2 SDK (バージョン 1.2 以下) を使用するように指定しても警告メッセージが表示されません。この場合、インストール自体は正常に完了しますが、Sun ONE Application Server が正常に機能しません。これは、以前の JAVA_HOME の設定が残っているからです。 解決法 インストールプログラムの実行前に、JAVA_HOME の設定を解除します。 (ksh の場合): unset JAVA_HOME (csh の場合): unsetenv JAVA_HOME

ID	要約
4742171	<p data-bbox="239 239 1222 300">既存の評価用環境に開発運用環境をサイレントモードでインストールした場合、エラーが報告されない</p> <p data-bbox="239 317 1222 439">インストーラをサイレントモードで実行するときに発生する問題です。既存の評価用 Sun ONE Application Server 7 (同じディレクトリ内) 上に、新しい Sun ONE Application Server 7 をサイレントモードでインストールする場合、途中でエラーが報告されることなく処理が進行します。既存の評価用インストールファイルは保存されます。</p> <p data-bbox="239 456 315 482">解決法</p> <p data-bbox="239 499 1222 557">新しい開発運用環境をインストールする前に、既存の Sun ONE Application Server 7 環境をアンインストールしてください。</p>
4742552	<p data-bbox="239 574 1222 670">コマンド行モード (サイレントモード) でインストールを行うとき、1 回のインストールセッションで Sun ONE Application Server と Support for Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition for Java コンポーネントの両方を選択すると、問題が発生する</p> <p data-bbox="239 687 1222 861">開発運用環境用インストールに影響を及ぼす問題です。コマンド行モード (サイレントモード) のインストールでは、1 回のインストールセッションで、Application Server と Support for Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition for Java の両方を選択できません (GUI モードではいずれか一方しか選択できない)。ところが、インストーラは、コンポーネントの依存関係を正しく処理できません。その結果、選択された Sun ONE Application Server コンポーネントではなく管理クライアントコンポーネントをインストールしようとしています。</p> <p data-bbox="239 878 315 904">解決法</p> <p data-bbox="239 921 1222 1046">GUI モードの場合と同様に、最初にコマンド行モード (サイレントモード) で Sun ONE Application Server コンポーネントをインストールしておきます。その後、新たなセッションで Support for Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition for Java コンポーネントをインストールします。</p>

ID	要約
なし	<p data-bbox="318 244 1268 331">Solaris 上で Sun ONE Application Server インストーラを使って既存の Sun ONE Message Queue 3.0 をバージョン 3.0.1 にアップグレードした場合、Sun ONE Application Server のアンインストール時に Sun ONE Message Queue も削除される</p> <p data-bbox="318 352 1300 465">Solaris の開発運用環境用インストーラに影響を及ぼす問題です。システム上の既存の Sun ONE Message Queue 3.0 を自動的にバージョン 3.0.1 にアップグレードできます。しかし、この Sun ONE Message Queue 3.0.1 は、Sun ONE Application Server のアンインストール時に削除されます。</p> <p data-bbox="318 486 396 515">解決法</p> <p data-bbox="318 536 1293 586">Sun ONE Application Server のアンインストール後も Sun ONE Message Queue を保存しておきたい場合は、次の手順を実行します。</p> <ol data-bbox="318 607 1308 788" style="list-style-type: none">1. 自動アップグレードを行うかどうかを確認するメッセージが表示された時点でインストーラを終了します。2. Sun ONE Message Queue のマニュアルの手順に従って Sun ONE Message Queue 3.0.1 へアップグレードします。3. Sun ONE Application Server のインストールを再び実行します。
4746410	<p data-bbox="318 800 1286 861">Solaris 上のデフォルト以外の場所に Sun ONE Application Server をインストールするとき、パッケージベースのインストーラはディスク容量をチェックしない</p> <p data-bbox="318 881 1286 994">パッケージベースのインストーラを使って Solaris 上のデフォルト以外の場所に Sun ONE Application Server をインストールする場合、インストールプログラムは、指定したインストール先ディレクトリのディスク容量をチェックしないで、デフォルトで指定された場所 (/opt) のディスク容量をチェックします。</p> <p data-bbox="318 1015 396 1045">解決法</p> <p data-bbox="318 1065 1300 1147">インストールを開始する前に /opt のディスク容量が 85M バイト以上あるかどうかを確認してください。これは、/opt をインストールディレクトリに指定しない場合も同様です。さらに、インストールディレクトリのディスク容量が 85M バイト以上あることを確認します。</p>
4748404	<p data-bbox="318 1159 1279 1220">Microsoft Windows XP では、サンプルアプリケーションコンポーネントと PointBase 4.2 コンポーネントを追加インストールできない</p> <p data-bbox="318 1241 1300 1385">Windows XP プラットフォームに影響を及ぼす問題です。既存の Sun ONE Application Server コンポーネント上に Sample Applications コンポーネントや PointBase 4.2 コンポーネントを追加インストールしようとしても、既存の Sun ONE Application Server が正常に検出されません。その結果、「Application Server Not Found」というエラーメッセージが表示されて、インストールが途中で終了します。</p> <p data-bbox="318 1406 396 1435">解決法</p> <p data-bbox="318 1456 1286 1572">Sample Applications コンポーネントや PointBase 4.2 コンポーネントは、Sun ONE Application Server コンポーネントと同時にインストールしてください。Sun ONE Application Server がすでにシステム上に存在する場合は、いったんアンインストールして再インストールします。このとき、必要なコンポーネントをすべて選択します。</p>

ID	要約
4748455	<p data-bbox="239 291 1228 378">サイレントインストール時にディレクトリエラーが発生する</p> <p data-bbox="239 291 1228 378">全プラットフォームのサイレントインストールに影響を及ぼす問題です。指定のインストールディレクトリに問題がある場合、「Invalid Installation Directory」というエラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージは次のように解釈できます。</p> <ul data-bbox="239 395 1228 468" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 395 1228 425">• 選択されたディレクトリへの書き込みが許可されていない<li data-bbox="239 439 1228 468">• 選択されたディレクトリの名前が空文字列、または空白文字を含む文字列
	<p data-bbox="239 487 314 510">解決法</p> <p data-bbox="239 534 1228 560">指定されたインストールディレクトリを調べ、エラーの原因を特定します。</p>
4749033	<p data-bbox="239 579 1228 638">Microsoft Windows XP では、スタンドアロンの管理クライアントをアンインストールプログラムでアンインストールできない</p> <p data-bbox="239 661 1228 772">Windows XP プラットフォーム上のスタンドアロンの管理クライアントに影響を及ぼす問題です。付属のアンインストールプログラムを使ってスタンドアロンの管理クライアントをアンインストールしようとする、不適切なコンポーネントセットが選択され、システムがハングアップします。</p>
	<p data-bbox="239 791 314 814">解決法</p> <p data-bbox="239 838 1228 1015">スタンドアロンの管理クライアントを手動でアンインストールします。ファイルが格納されている <i>install_dir</i> ディレクトリを削除します。関連するプログラムグループのフォルダ（「スタート」->「プログラム」->「Sun Microsystems」->Sun ONE Application Server）も削除します。スタンドアロンの管理クライアントコンポーネントに対応する Microsoft Windows レジストリエントリは存在しません。この手順により、システムは、管理クライアントがインストールされる前の状態に戻ります。</p>
4749666	<p data-bbox="239 1034 1228 1093">Sample Application コンポーネントを追加インストールした場合、サンプルドキュメントが初期サーバーインスタンスに公開されない</p> <p data-bbox="239 1116 1228 1310">すべてのプラットフォームの開発運用環境用インストーラに影響を及ぼす問題です。Sun ONE Application Server のインストール後、新たなインストールセッションでサンプルアプリケーションをインストールした場合、サンプルドキュメントが初期サーバーインスタンスに公開されません。また、http://hostname:port/samples からアクセスすることもできません。しかし、サンプルドキュメントはファイルシステム上にインストールされているので、次の URL からのローカルアクセスは可能です。 <code>file:///install_root/samples/index.html</code></p>
	<p data-bbox="239 1329 314 1352">解決法</p> <p data-bbox="239 1376 1228 1402">サンプルドキュメントにはローカルからアクセスしてください。</p>

ID	要約
4754256	<p data-bbox="321 243 1292 303">Solaris 上でインストーラを使って Sun ONE Message Queue をアップグレードする場合、設定ファイルが保存されない</p> <p data-bbox="321 321 1299 442">インストーラは、システム上で以前の Sun ONE Message Queue 3.0 パッケージを検出すると、自動的に Sun ONE Application Server 用の Sun ONE Message Queue 3.0.1 にアップグレードします。このとき、バージョン 3.0 の Solaris パッケージとともに次の設定ファイルが削除されます。</p> <pre data-bbox="321 451 792 512">/etc/imq/passwd /etc/imq/accesscontrol.properties</pre> <p data-bbox="321 529 1256 590">これらのファイルに変更を加えていた場合、変更内容は失われます。Sun ONE Message Queue 3.0.1 はデフォルトの設定になります。</p> <p data-bbox="321 598 399 633">解決法</p> <p data-bbox="321 651 1299 737">変更が加えられているファイルのバックアップコピーを作成しておき、アップグレードの完了後に復元します。詳細については、『Sun ONE Message Queue 3.0 インストールガイド』を参照してください。</p>
4754824	<p data-bbox="321 755 1299 789">Solaris 上で、CD からインストールを実行しているときエラーメッセージが表示される</p> <p data-bbox="321 807 1292 1015">CD-ROM ドライブにボリュームを挿入すると、Solaris ボリューム管理によりシンボリック名が割り当てられます。たとえば、デフォルトの正規表現が一致している CD-ROM が 2 枚ある場合、それぞれに <code>cdrom0</code> または <code>cdrom</code> という名前が割り当てられます。正規表現が一致している CD-ROM をさらに追加すると、<code>cdrom2</code> で始まる名前が割り当てられます。このことは、<code>vold.conf</code> のマニュアルページで説明しています。CD から Sun ONE Application Server をインストールするたびに、ラベル名と数値から成るマウントポイント名が割り当てられます。最初に CD をマウントしたときは、正常に動作します。2 回目以降のマウントでは、インストーラの起動時に次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="321 1024 1306 1119">IOException:java.io.FileNotFoundException: /cdrom/appserver7 No such file or directory) while loading default flavormap.properties file URL:file:/cdrom/appserver7#4/AppServer7/pkg/jre/lib/flavormap.properties</pre> <p data-bbox="321 1137 399 1171">解決法</p> <p data-bbox="321 1189 1113 1215">インストーラの機能には影響を及ぼしませんが、次の解決方法があります。</p> <ol data-bbox="321 1223 1285 1449" style="list-style-type: none">1. コマンドプロンプトに <code>su</code> と入力し、パスワードを入力してスーパーユーザーになります。または、最初から <code>root</code> (スーパーユーザー) としてログインします。スーパーユーザーのコマンドプロンプト (<code>#</code>) が表示されます。2. <code>/cdrom</code> ディレクトリが存在しない場合は、次のコマンドで作成します。<pre data-bbox="349 1362 556 1397"># mkdir /cdrom</pre>3. CD-ROM ドライブをマウントします。 <p data-bbox="321 1458 1135 1519">注: <code>vold</code> プロセスは、CD-ROM デバイスを管理し、マウントを実行します。<code>/cdrom/cdrom0</code> に、CD-ROM が自動的にマウントされます。</p>

ID	要約
(続き)	<p>ファイルマネージャを実行している場合は、ファイルマネージャウィンドウが開き、CD-ROM の内容が表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> CD-ROM がマウントされていないため /cdrom/cdrom0 ディレクトリが空になっている場合や、CD-ROM のコンテンツを表示するファイルマネージャウィンドウが開かない場合は、次のコマンドで、vold デーモンが実行されているかどうかを確認します。 <pre># ps -e grep vold grep -v grep</pre> vold が実行されている場合は、vold のプロセス ID が表示されます。何も表示されない場合は、次のコマンドでデーモンを強制終了します。 <pre># ps -ef grep vold grep -v grep</pre> 次のコマンドで vold プロセスを停止します。 <pre># kill -15 process_ID_number</pre> CD-ROM を手動でマウントします。 <pre># mount -F hsfs -r ro /dev/dsk/cxytyd0sz /cdrom/cdrom0</pre> <p>x は CD-ROM ドライブのドライブコントローラ文字です。y は CD-ROM ドライブの SCSI ID です。z は CD-ROM が置かれているパーティション (スライス) です。</p> <p>これで、CD-ROM ドライブがマウントされました。インストール時の手順については、Solaris のマニュアルで CD のインストールと設定に関する説明を参照してください。</p>
4755165	<p>Microsoft Windows で、管理者の認証情報を setup.exe の実行時に提供した場合、インストーラ機能に問題が発生する</p> <p>Microsoft Windows プラットフォームのインストールに影響を及ぼす問題です。管理者の特権なしでログインしたユーザーが setup.exe を実行しようとする時、管理者の認証情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。正しい認証情報を入力すると、特権のチェックが正常に完了し、インストールが開始されます。ただし、次のような問題が発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> インストールディレクトリを選択する画面で「ブラウズ」ボタンを使用すると、インストーラがハングアップします。 Sun ONE Application Server のプログラムグループエントリが作成されません。 <p>解決法</p> <p>インストールの実行時には管理者の特権を持つユーザーとしてログインしてください。</p>

ID	要約
4757687	<p>Solaris 上で管理クライアントコンポーネントがインストールされているシステムに追加インストールすると、Sun ONE Application Server を使用できなくなる</p> <p>Solaris プラットフォーム上の Solaris のパッケージベースのインストールに影響を及ぼす問題です。スタンドアロンの管理クライアントコンポーネントがインストールされているシステムに、管理クライアントコンポーネントのインストールディレクトリ以外のディレクトリを指定して Sun ONE Application Server をインストールした場合、インストールに成功したというメッセージが表示されていても、この Sun ONE Application Server を使用することはできません。これは、システム上に管理クライアントの Solaris パッケージがインストールされているからです。これらのパッケージを Sun ONE Application Server と同時にインストールすることはできません。その結果、製品機能を使用するために必要なファイルが見つからないという問題が発生します。</p> <p>解決法</p> <p>Solaris システム上のスタンドアロンの管理クライアントをアンインストールしてから、Sun ONE Application Server をインストールします。</p> <p>Sun ONE Application Server の追加インストールも可能ですが、管理クライアントと同じインストールディレクトリを使用する必要があります。</p>
4762118	<p>Solaris 上で、選択されたカスタム設定ディレクトリが選択されたインストールディレクトリのサブディレクトリ etc である場合、インストールが失敗する</p> <p>Solaris プラットフォーム上の Solaris のパッケージベースのインストールに影響を及ぼす問題です。次の組み合わせでカスタムディレクトリを選択すると、ディレクトリのグループの所有権情報に不整合が生じ、インストールが失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none">インストールディレクトリ : <i>install_dir</i>設定ディレクトリ : <i>install_dir/etc</i> <p><i>/var/sadm/install/logs</i> ディレクトリ内の pkgadd ログファイルに次のエラーメッセージが書き込まれます。</p> <pre>pkgadd: ERROR: duplicate pathname <i>/install_dir/etc</i> pkgadd: ERROR: unable to process pkgmap</pre> <p>解決法</p> <p><i>install_dir/etc</i> 以外のカスタム設定ディレクトリを選択してください。</p>
4724612	<p>Solaris SPARC および Linux 上で、インストールを行なったユーザー以外が PointBase シェルスクリプトを実行すると失敗する</p> <p>評価版インストールだけに影響を及ぼす問題です。PointBase シェルスクリプトの実行権はインストールを行なったユーザーにだけ付与されます。</p> <p>解決法</p> <p>製品のインストールを行なったユーザー以外がこのスクリプトを実行する必要がある場合は、実行権を 0755 に変更してください。</p>

ID	要約
4762694	Solaris 上で、Sun ONE Message Queue のアップグレード時に Sun ONE Message Queue パッケージ SUNWiqsup が削除されない Solaris だけで発生する問題です。Sun ONE Application Server 7 のインストール時には、Sun ONE Message Queue 3.0.1 がインストールされます。Solaris 上で Sun ONE Message Queue 3.0 が検出された場合、このバージョンはユーザーの承認を経てアンインストールされます。その後、バージョン 3.0.1 がインストールされます。 アップグレード時、Solaris インストーラが Sun ONE Message Queue 3.0 の Solaris パッケージの一部 (SUNWiqsup) を削除しないというクリーンアップ関連の問題があります。このパッケージは、Sun ONE Message Queue にも Sun ONE Application Server 7 にも悪影響を及ぼしません。したがって、残したままでも問題はありませぬ。 解決法 root (スーパーユーザー) になり、次のコマンドを使って SUNWiqsup パッケージを手動で削除します。 # pkgrm SUNWiqsup
4890289	Window 2000 Pro 上で、アンインストールプログラムがアンインストールの実行に必要な JDK を見つけることができない Window 2000 Pro 上でアンインストールを実行すると、次のメッセージが表示されて失敗します。 The uninstaller could not locate a suitable j2sdk to run the uninstalltion program. Run the uninstalltion again with the -javahome option set to the directory in which j2sdk 1.4.0_02 or greater is installed. Press Enter to exit. 解決法 JDK の場所として -javahome を使用します。

ID	要約
4890613	<p data-bbox="319 239 1190 269">Linux 上で、インストールプログラムが既存の J2SE をアップグレードしない</p> <p data-bbox="319 286 1306 347">Sun ONE Application Server 7, Update 2 ソフトウェアを Linux にインストールすると、次のエラーが表示されて Application Server の起動に失敗します。</p> <pre data-bbox="319 364 1263 425">[08/Aug/2003:12:18:34] INFO (4491): CORE1116: Sun ONE Application Server 7.0.0_02</pre> <pre data-bbox="319 442 1235 529">[08/Aug/2003:12:18:34] SEVERE (4491): CORE3170: Configuration initialization failed: Error running init function load-modules: dlopen of /opt/SUNWappserver7/lib/libj2eeplugin.so failed</pre> <pre data-bbox="319 546 1178 633">(/usr/java/j2sdk1.4.1/jre/lib/i386/server/libjvm.so: version SUNWprivate_1.1' not found (required by /opt/SUNWappserver7/lib/libj2eeplugin.so))</pre> <p data-bbox="319 651 396 680">解決法</p> <p data-bbox="319 697 1306 784">関係するすべての Sun ONE Application Server 7, Update 2 インスタンスについて、<instance-id>/config/server.xml ファイルの java-home 値を次のように変更します。</p> <pre data-bbox="319 802 821 831">java-home="/usr/java/j2sdk1.4.1_04"</pre>
4933997	<p data-bbox="319 841 991 871">Linux 上で、アップグレードしたサーバーの起動に失敗する</p> <p data-bbox="319 888 1306 949">アップグレードしたサーバーを起動すると、起動に失敗し、ログファイルに JMS サービスの起動に失敗したというメッセージが記録されます。</p> <p data-bbox="319 966 396 996">解決法</p> <p data-bbox="319 1013 1019 1043">次のディレクトリの間にはソフトリンクを作成する必要があります。</p> <ul data-bbox="368 1060 951 1138" style="list-style-type: none">• /opt/imq/etc を /etc/opt/imq にリンクする• /opt/imq/var を /var/opt/imq にリンクする <p data-bbox="319 1156 1090 1185">ソフトリンクを作成したら、サーバーをもう一度起動してみてください。</p>

サーバーの起動とシャットダウン

この節では、起動とシャットダウンに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ログサービスの create-console 属性の動作

Microsoft Windows では、server.xml 内の log-service 要素の create-console 属性の値を true に設定すると (デフォルト設定)、デスクトップ上にウィンドウが開き、サーバーイベントログの内容が表示されます。意図的にこのウィンドウを閉じて、アプリケーションサーバーインスタンスプロセスが終了したままになることはありません。コンソールウィンドウを閉じると、appservd.exe プロセスが終了します。しかし、このサーバーインスタンスプロセスは、監視プロセス (appservd-wdog.exe) によってただちに再起動されます。

開発者は、アプリケーションサーバーインスタンスを迅速に再起動する手段として、インスタンスのイベントログウィンドウを閉じることができます。

ただし、アプリケーションサーバーインスタンスを完全に (監視プロセスとともに) 停止する場合は、次の手順を実行してください。

- 管理インタフェースを使用する場合 - 「スタート」-> 「プログラム」-> 「Sun ONE Application Server 7」-> 「Stop Application Server」を選択します。
- コマンド行インタフェースを使用する場合 - `asadmin stop-instance --local=true instance name` を実行します。
これは、ローカル形式の `stop-instance` コマンドです。リモート形式も使用できます。詳細については、`asadmin stop-instance` のヘルプを参照してください。
- 管理コンソールを使用する場合 - サーバーインスタンスを選択し、「停止」をクリックします。

管理コンソールでは、アプリケーションサーバーインスタンスの「ログ」タブの「コンソールを作成」の設定を変更することにより、コンソールイベントログウィンドウの有効または無効を切り替えることができます。

ID	要約
4725893	<p>Solaris 上で、ライセンスの有効期限が表示されない</p> <p>Solaris SPARC の評価用ライセンスに影響を及ぼします。ライセンスの有効期限まで 2 週間以内になっても、コマンド行インタフェースやブラウザベースのインタフェースに警告メッセージが表示されません。この警告メッセージは、サーバーログファイルに書き込まれません。</p> <p>解決法</p> <p>サーバーログファイルを確認してください。</p>

ID	要約
4738648	<p data-bbox="318 244 1108 270">JMS サービス、または Sun ONE Application Server の起動に失敗する</p> <p data-bbox="318 291 1300 378">JMS プロバイダ (Sun ONE Message Queue ブローカ) が未配信の持続メッセージを大量に保持している場合、次の問題の発生により、Sun ONE Application Server の初期化時に障害が発生します。</p> <ol data-bbox="318 395 1286 453" style="list-style-type: none">1. 未配信のメッセージを全部読み込もうとしてメモリ不足になり、MQ ブローカの処理が中断されます。 <p data-bbox="318 470 396 496">解決法</p> <p data-bbox="318 517 1308 574">MQ ブローカプロセスの Java ヒープサイズを大きくしてください。このためには、JMS サービスの起動引数属性の値を <code>-vmargs -Xmx256m</code> に設定します。</p> <p data-bbox="318 591 1286 649">この属性の設定手順については、『Sun ONE Application Server Administrator's Guide』の「JMS サービスの使用」の章を参照してください。</p> <ol data-bbox="318 666 1222 723" style="list-style-type: none">2. MQ ブローカが特定の時間内に初期化シーケンスを完了できない場合、Sun ONE Application Server がタイムアウトになり、中断します。 <p data-bbox="318 741 396 767">解決法</p> <p data-bbox="318 788 1308 874">JMS サービスの <code>Start Timeout</code> 属性の値を大きくします。この属性の設定手順については、『Sun ONE Application Server Administrator's Guide』の「JMS サービスの使用」の章を参照してください。</p>

ID	要約
----	----

4762420 ファイアウォールの規則により、Sun ONE Application Server の起動に失敗する

個人的にファイアウォールをインストールしている場合に発生する問題です。Sun ONE Application Server がインストールされているマシンに厳密なファイアウォール規則を適用すると、管理サーバーおよび Application Server インスタンスの起動時に障害が発生することがあります。管理サーバーおよび Application Server インスタンスは、Sun ONE Application Server 環境でローカル接続を確立しようとしています。これらの接続はローカルのホストではなくシステムのホスト名を使ってポートにアクセスしようとするので、ローカルのファイアウォールの規則に従ってブロックされることがあります。

セキュリティ上何の問題もない処理に対して、ローカルのファイアウォールが誤った警告を生成することもあります。たとえば、Sun ONE Application Server がポート 3700 で TCP 接続を試行しているのに、「Portal of Doom Trojan」攻撃または同様の攻撃を受けたというメッセージが表示される場合があります。このような問題は、Sun ONE Application Server がローカル通信に使用するポート番号と、既知の一般的な攻撃に使用されるポート番号が重複している場合に発生します。ポート番号が重複しているかどうかの判断基準は次のとおりです。

- Microsoft Windows プログラムグループの「Start Application Server」を使って Sun ONE Application Server を起動しようすると、次のメッセージとともに処理が失敗します。

```
Could not start the instance: domain1:admin-server
server failed to start: abnormal subprocess termination
...
```

- 管理ログファイルとサーバーインスタンスログファイルに、接続例外と次のメッセージが書き込まれています。CORE3186: Failed to set configuration

解決法

Sun ONE Application Server からローカルシステム上のポートに接続できるように、ファイアウォールポリシーを変更します。

攻撃について誤った警告が生成されないようにするには、攻撃関連の規則を変更するか、Sun ONE Application Server が使用するポート番号を変更します。

管理サーバーおよび Application Server インスタンスが使用するポート番号は、Sun ONE Application Server のインストール先の `server.xml` ファイルで確認できます。

```
domain_config_dir/domain1/admin-server/config/server.xml
domain_config_dir/domain1/server1/config/server.xml
```

`domain_config_dir` はサーバーの初期設定を行なった場所です。次に例を示します。

Microsoft Windows: `install_dir/domains/...`

Solaris 9 以上の統合インストールの場合 `:/var/appserver/domains/...`

Solaris 8、9 以上のアンバンドルインストールの場合

`:/var/opt/SUNWappserver7/domains/...`

<iiop-listener> と <jms-service> のポート設定を確認します。これらのポート番号を未使用のポート番号に変更するか、ローカルマシン上のクライアントから同じマシン上のこれらのポートへ接続できるようにファイアウォールポリシーを書き換えます。

ID	要約
4780076	<p data-bbox="318 244 1278 303">Solaris 上で、Sun ONE Application Server がすべてのインスタンスを root (スーパーユーザー) として起動するため、root 以外のユーザーに root アクセス権が与えられる</p> <p data-bbox="318 322 1256 380">Sun ONE Application Server を Solaris (バンドル版) の一部としてインストールすると、Application Server の起動に関連する問題が発生します。</p> <ul data-bbox="318 397 1292 661" style="list-style-type: none"> • すべての Application Server および管理サーバーは、Solaris の起動時に、自動的に起動します。環境によっては、Solaris の起動時に、インスタンスが起動しない場合もあります。定義されたすべてのインスタンスを起動すると、システム上の利用可能なメモリに悪影響を与えることがあります。 • Application Server インスタンスおよび管理サーバーインスタンスが自動的に起動する際、各インスタンスの起動スクリプトは root (スーパーユーザー) として実行されます。インスタンスレベルの起動スクリプトを変更すると、root 以外が所有するインスタンス起動スクリプトを実行して、root 以外のユーザーが root ユーザーにアクセスできるようになります。 <p data-bbox="318 680 521 708">バックグラウンド</p> <p data-bbox="318 729 1306 894">Sun ONE Application Server を Solaris の一部としてインストールすると、<code>/etc/init.d/appserv</code> スクリプトと、<code>/etc/rc*.d/</code> ディレクトリの <code>S84appserv</code> および <code>K05appserv</code> スクリプトへのシンボリックリンクがインストールされます。インストールされたスクリプトは、すべての Application Server と管理サーバーのインスタンスを Application Server の一部として定義します。そのため、Solaris システムの起動およびシャットダウン時に、インスタンスは自動的に起動、停止されます。</p> <p data-bbox="318 913 1153 940"><code>/etc/init.d/appserv</code> スクリプトには、次のコードセクションがあります。</p> <pre data-bbox="318 968 821 1218"> ... case "\$1" in 'start') /usr/sbin/asadmin start-appserv ;; 'stop') /usr/sbin/asadmin stop-appserv ;; ... </pre> <p data-bbox="318 1241 1306 1451">asadmin start-appserv コマンドを実行すると、管理サーバーインスタンスおよび管理ドメインに定義されているすべての Application Server インスタンスが Solaris 起動時に起動します。システムの起動およびシャットダウンスクリプトは root で実行されるので、各 Application Server と管理サーバーのインスタンスも root で実行されます。インスタンスレベルの起動スクリプトは、startserv という名前で <code>instance-dir/bin/startserv</code> に格納されます。インスタンスは、root 以外のユーザーが所有していることがあるため、root 以外のユーザーが startserv スクリプトを変更して、root ユーザーでコマンドを実行する可能性があります。</p> <p data-bbox="318 1470 1306 1576">インスタンスが特権を持つネットワークポートを使用している場合は、そのインスタンスの startserv スクリプトは root として実行する必要があります。通常、インスタンスを「実行するユーザー」と設定して、一度インスタンスを root ユーザーで起動した後は、特定のユーザーで実行されるようにします。</p>

ID	要約
----	----

(続き) **解決法**

次に解決方法を示します。環境に対応した方法を実行してください。

- すべての **Application Server** と管理サーバーのインスタンスが **root** で起動されない環境では、`/etc/init.d/appserv` スクリプトの `asadmin start-appserv` および `asadmin stop-appserv` コマンドをコメントアウトして実行されないようにします。
- 特定の管理ドメイン (管理サーバーインスタンス、および各ドメインのすべての **Application Server** インスタンスを含む)、あるいは1つ以上の管理ドメイン内で特定のインスタンスを起動する環境では、`/etc/init.d/appserv` スクリプトを変更してドメインやインスタンスを起動するようにするか、あるいは環境に対応した `/etc/rc*.d/` スクリプトを新たに定義します。
- 特定のドメインを起動します。管理ドメインあるいは特定のインスタンスが **root** 以外のユーザーとして起動する必要がある場合は、`-c` オプション付きの `su` コマンドを使って目的のドメインやインスタンスを起動します。

例

特定の管理ドメインの起動 - 次のように `/etc/rc*.d/` スクリプトを変更すると、管理サーバーインスタンス、および特定の管理ドメインに含まれるすべての **Application Server** インスタンスが、**root** で実行されます。

```
...
case "$1" in
'start')
    /usr/sbin/asadmin start-domain --domain production-domain
    ;;
'stop')
    /usr/sbin/asadmin stop-domain --domain production-domain
    ;;
...

```

ID	要約
(続き)	<ul style="list-style-type: none">特定のアプリケーションサーバーインスタンスを root 以外のユーザーで実行するには、<code>/etc/rc*.d/</code> スクリプトを変更して、<code>-c</code> オプション付きの <code>su</code> コマンドを使用するようになります。 <pre>... case "\$1" in 'start') su - usera -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain instance-a" su - userb -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain instance-b" ;; 'stop') su - usera -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain instance-a" su - userb -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain instance-b" ;; ... </pre> <p>asadmin のコマンド行インタフェースで利用できる、起動とシャットダウンに関するコマンドの詳細は、『Sun ONE Application Server Administrator's Guide』を参照してください。</p>

データベースドライバ

この節では、データベースドライバに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4700531	<p data-bbox="239 383 905 401">Solaris 上で、ORACLE JDBC ドライバのエラーが発生する</p> <p data-bbox="239 430 1225 543">この JDBC ドライバは、JDK 1.4 と連携して機能する Oracle 用の新しいドライバです。Oracle 9.1 データベースと <code>ojdbc14.jar</code> が併用されているために、エラーが発生しています。Oracle 9.0.1.3 データベースを実行している 32 ビット版 Solaris マシンにパッチを適用すれば、問題を修正できます。</p> <p data-bbox="239 565 315 583">解決法</p> <p data-bbox="239 612 1225 664">Oracle の Web サイトからバグ ID 2199718 のパッチを入手し、サーバーに適用します。次の手順を実行してください。</p> <ol data-bbox="239 687 1225 1015" style="list-style-type: none">1. Oracle の Web サイトに移動します。2. 「パッチ」ボタンをクリックします。3. パッチ ID フィールドに「2199718」と入力します。4. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。次に、<code>Metalink.oracle.com</code> に移動します。5. パッチをクリックします。6. パッチ ID 2199718 を入力します。7. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。
4707531	<p data-bbox="239 1038 1225 1090">Solaris 上で、Oracle 9.2 クライアントから Oracle 9.1 データベースにアクセスするとデータが壊れる</p> <p data-bbox="239 1112 1225 1164">timestamp 列に続いて number 列が存在する場合、Oracle 9.2 クライアントから Oracle 9.1 データベースにアクセスするとデータが壊れることがあります。</p> <p data-bbox="239 1187 1225 1300">Oracle 9.1 データベースで <code>ojdbc14.jar</code> ファイルを使用していると、この問題が発生します。Oracle 9.1 データベースを実行している 32 ビット版 Solaris マシンにパッチを適用すれば、問題を修正できます。この JDBC ドライバは、JDK 1.4 と連携して機能する Oracle 用のドライバです。</p> <p data-bbox="239 1322 315 1340">解決法</p> <p data-bbox="239 1369 1225 1400">Oracle の Web サイトからバグ ID 2199718 のパッチを入手し、サーバーに適用します。</p>

Web コンテナ

この節では、Web コンテナの既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4740477	<p data-bbox="318 387 1253 444">sun-web-app_2_3-0.dtd ファイル内に、タイムアウト要素の構文が正しくない Web キャッシュの例がある</p> <p data-bbox="318 465 1275 522">この例では、<code>timeout</code> が XML キャッシュオブジェクトを使用するように設定されています。</p> <pre data-bbox="318 526 648 548"><timeout> 60 </timeout></pre> <p data-bbox="318 569 1286 626"><code>name</code> パラメータは必須フィールドなので、本来であれば次のように設定しなければなりません。</p> <pre data-bbox="318 630 776 652"><timeout name="foo">60</timeout></pre> <p data-bbox="318 673 396 696">解決法</p> <p data-bbox="318 716 733 739">ベリファイアを使用しないでください。</p>
4817642	<p data-bbox="318 765 1300 822">複数の異なる Web アプリケーションが同じセッション ID を共有できるように設定すると、セキュリティが低下する</p> <p data-bbox="318 843 396 866">解決法</p> <p data-bbox="318 887 1300 1211">J2EE 仕様によると、配備した Web アプリケーションごとに、一意のセッションオブジェクト (セッション ID) が割り当てられます。この動作は、Sun One Application Server のデフォルトの動作になっています。ただし、インスタンスによっては、複数の異なる Web アプリケーションで同じセッション ID を共有できた方がよい場合があります。そのような場合には、Sun One Application Server の <code>sun-web.xml</code> 配備記述子に特別な配備プロパティを指定して、その特定のアプリケーションが別の Web アプリケーションモジュールを使用するときにセッション ID を再利用できるように、アプリケーションサーバーを設定することができます (Web アプリケーションに最初にアクセスすると、新しい一意のセッション ID が生成されます。それ以降に、この特別なプロパティが設定されている別の Web アプリケーションに要求を送信すると、そのクライアントとその Web アプリケーションのために新しいセッション ID は生成されず、同じセッション ID が使用されます)。</p> <p data-bbox="318 1232 1300 1315">この動作を行うには、配備済みの Web アプリケーションのうち、同じセッションオブジェクトの共有を許可する Web アプリケーションについて、それぞれの <code>reuseSessionId</code> プロパティに <code>true</code> を設定する必要があります。次に例を示します。</p>

ID	要約
(続き)	<pre data-bbox="239 244 1249 534"><?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?> <sun-web-app> <session-config> <cookie-properties> <property name="cookiePath" value = "/" /> <property name="cookieDomain" value = ".sun.com" /> </cookie-properties> </session-config> <property name="reuseSessionID" value="true"/> </sun-web-app></pre> <p data-bbox="239 557 1249 583">reuseSessionID プロパティが、最後から 2 番目の行で true に設定されています。</p> <p data-bbox="239 600 1249 800">警告: reuseSessionId プロパティを有効にすると、潜在的にセキュリティが低下する可能性があります (プロパティ自体のセキュリティが脆弱なわけではありません)。このプロパティは、複数の顧客が同じ Sun One Application Server インスタンス上でアプリケーションを実行できるような、ISV などの共有環境では使用しないでください。そのような環境の場合には、デフォルトの J2EE 動作を使用して、同じサーバーインスタンスに配備した複数の異なる Web アプリケーションが個別のセッションオブジェクトを使用する方が、はるかに安全です。</p>
4910686	<p data-bbox="239 822 1249 881">SSL ポートのクライアント認証が有効になっていないときでも、SSL ポート上で Application Server がブラウザのクライアント証明書を要求する</p> <p data-bbox="239 899 315 925">解決法</p> <p data-bbox="239 942 462 968">解決法はありません。</p>

EJB コンテナ

この節では、Enterprise JavaBeans™ (EJB™) に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4735835	<p data-bbox="318 387 1036 409">ejbFind メソッドから戻された null の PK を正しく処理できない</p> <p data-bbox="318 435 1305 517">次のコンテナ管理持続 (CMP) の例では、<code>ejbFind</code> から 1 個以上の <code>null</code> が戻されます。なお、ここでは、<code>ejbFind</code> が <code>EmployeeEJB Bean</code> によって呼び出され、<code>Bean</code> と同じインスタンス型を戻すものとします。</p> <ol data-bbox="318 539 1086 652" style="list-style-type: none"><li data-bbox="318 539 1086 574"><code>1. find insurance.employee where insurance.id == 10</code><li data-bbox="318 591 1086 652"><code>2. find all insurance.employee where insurance.id > 10</code> <p data-bbox="318 678 1086 701"><code>employee</code> を持たない <code>insurance</code> に対して、<code>null</code> を含む集まりを戻します。</p> <p data-bbox="318 727 1290 777">結果セット内で最初に <code>null</code> の PK を検出したとき、CMP クライアントは、「<code>param0 cannot be null</code>」という <code>JDOFatalInternalException</code> を受け取ります。</p> <p data-bbox="318 803 1290 881">単一オブジェクトの検索メソッドの場合、BMP クライアントは、「<code>Null primary key returned from ejbFind method</code>」という <code>EJBException</code> を受け取ります。マルチオブジェクトの検索メソッドの場合、<code>NullPointerException</code> を受け取ります。</p> <p data-bbox="318 907 394 930">解決法</p> <p data-bbox="318 951 544 973">解決法はありません。</p>
4744434	<p data-bbox="318 994 1290 1045">ステートフルセッション Bean の使用時に Sun ONE Application Server が Null Pointer 例外をスローする</p> <p data-bbox="318 1071 1305 1242">Sun ONE Application Server の EJB コンテナは、ステートフルセッション Bean をキャッシュに格納することにより、パフォーマンスを改善します。キャッシュのオーバーフローが発生すると (キャッシュ内の Bean 数が <code>max-cache-size</code> を超過すると)、コンテナにより、Bean が非活性化されて、ディスクに退避されます。サーバーは <code>NullPointerException</code> をスローします。この問題は、<code>max-cache-size</code> と <code>cache-resize-quantity</code> の差が 8 より小さいときに発生します。</p> <p data-bbox="318 1269 394 1291">解決法</p> <p data-bbox="318 1312 1290 1366"><code>max-cache-size</code> と <code>cache-resize-quantity</code> の差が 8 より大きくなるように設定します。または、<code>max-cache-size</code> の値を 0 に設定して、制限なしのキャッシュを使用します。</p>

コンテナ管理持続

この節では、コンテナ管理持続 (CMP) の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4732684	<p data-bbox="239 387 768 409">Oracle JDBC ドライバの最適化が開始されない</p> <p data-bbox="239 435 1215 548">コンテナ管理持続 (CMP) Bean を使って Oracle データベースを最適化するには、classes12.zip ファイルを server.xml ファイルの classpath-suffix 属性に指定する必要があります。サードパーティライブラリのデフォルトのディレクトリ /lib には格納しません。</p> <p data-bbox="239 569 315 591">解決法</p> <p data-bbox="239 618 1205 670">server.xml ファイルの classpath-suffix 属性に classes12.zip ファイルを追加します。</p>
4734963	<p data-bbox="239 690 886 713">配備時にセルフリファレンス CMR による問題が発生する</p> <p data-bbox="239 739 1215 826">EJB 配備記述子のパーサー ejb-jar.xml は、自己参照のコンテナ管理関係 (CMR)、すなわち ejb-relationship-role を正しく処理しません。1 対多の 1 側のフィールドはスキップされます。</p> <p data-bbox="239 847 315 869">解決法</p> <p data-bbox="239 895 1125 944">1 の側が (<multiplicity> の多側とともに) ejb-relation の先頭に来るように ejb-relationship-role セクションを変更します。</p>

ID	要約
4747222	<p data-bbox="315 239 1303 300">Oracle のキャプチャスキーマユーティリティは -schemaname が指定されていないと動作しない</p> <p data-bbox="315 322 1293 378">capture-schema ユーティリティでは、-schemaname を指定しないで Oracle データベースからデータベーススキーマ情報を取り込もうとすると、次の問題が発生します。</p> <p data-bbox="315 395 1296 425">1. すべてのテーブルを取り込もうとした場合 (特定のテーブルを明示的に選択しない場合)</p> <pre data-bbox="315 440 1205 526">bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -out test.dbschema</pre> <p data-bbox="315 545 733 574">次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="315 576 882 630">java.sql.SQLException ORA-00942: table or view does not exist.</pre> <p data-bbox="315 649 638 678">出力ファイルは壊れています。</p> <p data-bbox="315 696 1043 725">2. -table オプションを使って 1 個以上のテーブルを指定した場合</p> <pre data-bbox="315 741 1205 826">bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -table DEPT -out test.dbschema</pre> <p data-bbox="315 845 1296 902">出力ファイルには指定のテーブルが書き込まれますが、カラム情報は書き込まれません。したがって、このファイルで CMP マッピングを行うことはできません。</p> <p data-bbox="315 920 396 949">解決法</p> <p data-bbox="315 966 1303 1024">Oracle データベースからスキーマを取り込むときは、必ず -schemaname オプションを使用し、アルファベットの大文字でユーザー名を指定してください。</p> <pre data-bbox="315 1041 1300 1128">bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -schemaname SCOTT -out test.dbschema)</pre>
4751235	<p data-bbox="315 1145 1303 1206">キャプチャスキーマユーティリティ : Oracle または PointBase で -table オプションの値を大文字で指定しないと壊れたファイルが出力される</p> <p data-bbox="315 1223 1296 1395">Oracle や PointBase は、二重引用符 ("") で囲まれていない識別子の文字をすべて大文字に変換します。capture-schema ユーティリティで Oracle または PointBase からデータベーススキーマを取り込むとき、-table オプションの引数として小文字だけ (-table student など)、または大文字と小文字 (-table Student など) でテーブル名を指定すると、正しく処理されません。対応するテーブルのカラム情報を含まないデータベーススキーマファイルが生成されます。</p> <p data-bbox="315 1414 396 1444">解決法</p> <p data-bbox="315 1461 1110 1491">テーブル名はすべて大文字で指定してください (-table STUDENT など)。</p>

Message Service とメッセージ駆動型 Beans

この節では、Java Message Service (JMS)、Sun ONE Message Queue およびメッセージ駆動型 Beans の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4683029	<p>MQ Solaris/Microsoft Windows スクリプト内の <code>-javahome</code> フラグは、値に空白文字が含まれていると正しく機能しない</p> <p>Sun ONE Message Queue のコマンド行ユーティリティには、その他の Java ランタイムを指定する <code>-javahome</code> オプションが用意されています。このオプションを使用する際、Java ランタイムのパスに空白文字を含めることはできません。空白文字を含むパスの例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows の場合 : <code>C:\jdk 1.4</code>• Solaris の場合 : <code>/work/java 1.4</code> <p>この問題は、Sun ONE Application Server インスタンスの起動時に発生します。Sun ONE Application Server インスタンスを起動すると、デフォルトで、対応する Sun ONE Message Queue ブローカインスタンスが起動します。このブローカは、Sun ONE Application Server と同じ Java ランタイムを使用するため、<code>-javahome</code> コマンド行オプションを使って起動します。Sun ONE Application Server 用に設定された Java ランタイム (ブローカでも使用可能) のパスに空白文字が含まれていると、ブローカの起動に失敗します。このため、Sun ONE Application Server インスタンスの起動も失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server の Java ランタイムのパスに空白文字が含まれていないことを確認してください。</p>

Java トランザクションサービス (JTS)

この節では、Java トランザクションサービス (JTS) の既知の問題とその解決方法を示します。

復旧

JDBC ドライバの復旧に関する既知の問題があります。Sun ONE Application Server は、これらの問題に対していくつかの回避策を用意しています。デフォルトでは、ユーザーが明示的に指定しない限り、これらの回避策は使用されません。

- Oracle JDBC ドライバの問題 - Oracle XA Resource 実装の回復メソッドは、入力フラグとは関係なく、繰り返し同じ未確定 Xid のセットを戻します。XA 仕様によると、トランザクションマネージャは、最初に TMSTARTSCAN を使って XAResource.recover を呼び出したあと、TMNOFLAGS を使って、Xid が戻されなくなるまで繰り返し XAResource.recover を呼び出します。

Sun ONE Application Server は、Oracle XA Resource の確認メソッドの問題に対する回避策も用意しています。この回避策を適用するには、server.xml ファイルの transaction-service サブ要素に次のプロパティを追加します。

```
oracle-xa-recovery-workaround
```

プロパティ値は必ず true に設定します。

- Sybase JConnect 5.2 ドライバの問題 - JConnect 5.2 ドライバには、JConnect 5.5 では解決されている既知の問題があります。JConnect 5.2 ドライバを使用する場合は、server.xml ファイルの transaction-service サブ要素に次のプロパティを追加して、復旧を有効にしてください。

```
sybase-xa-recovery-workaround
```

プロパティ値は必ず true に設定します。

トランザクション

server.xml ファイルでは、XA 接続と非 XA 接続の区別に res-type を使用します。接続を区別することで、データを駆動するデータソースの設定が識別されます。たとえば、Datadirect ドライバでは、同じデータソースを XA または非 XA として使用できます。

デフォルトでは、データソースは非 XA です。XA に指定してトランザクションの connpool 要素を付加するには、res-type が必要です。トランザクション内で connpool を正常に機能させるには、server.xml ファイルに次の res-type 属性を追加します。

```
res-type="javax.sql.XADataSource"
```

ID	要約
4689337	<p>非 txn コンテキストの XADatasource 接続は使用できない</p> <p>データベースドライバの既知の問題です。非 txn コンテキストの XADataSource 接続では、Autocommit がデフォルトで false に設定されます。</p> <p>解決法</p> <p>トランザクションではなく非 XA データソースクラスを使って、commit または rollback プログラムを明示的に呼び出します。</p>

ID	要約
4700241	<p>トランザクションのタイムアウト値をゼロ以外に設定するとローカルトランザクションの処理時間が長くなる</p> <p>現在のローカルトランザクションマネージャは、一定のタイムアウト値を持つトランザクションをサポートしません。transaction-service 要素の timeout-in-seconds 属性に 0 より大きい値を指定すると、すべてのローカルトランザクションがグローバルトランザクションとして処理されるため、処理時間が長くなります。さらに、データソースドライバがグローバルトランザクションをサポートしていないと、ローカルトランザクションは失敗します。タイムアウト値が 0 のとき、トランザクションマネージャは、データソースからの応答を無期限に待機します。</p> <p>解決法</p> <p>timeout-in-seconds の値をデフォルトの 0 に戻します。</p>

アプリケーションの配備

この節では、配備に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4403166	<p>Microsoft Windows では、長いパス名がサポートされていない</p> <p>この問題については、11 ページの「インストールとアンインストール」を参照してください。</p>
4703680	<p>EJB モジュールを (MDB とともに) 再配備すると、リソース競合例外がスローされる</p> <p>Microsoft Windows 2000 上の Sun ONE Studio 4 でメッセージ駆動型 Beans (MDB) を使用するときが発生する問題です。EJB モジュールに特定のキューを使用する MDB が含まれている場合、同じ EJB モジュールを (同じキューを使用する) 同じ MDB とともに再配備すると、リソースの競合が発生します。その結果、(変更済みの)モジュールを使用できなくなります。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4725147	<p data-bbox="318 239 1296 404">配備する仮想サーバーを選択できない</p> <p data-bbox="318 291 1296 404">この場合は、仮想サーバー 2 台をまったく同じように設定し、一方をホスト、もう一方をリスナーにします。アプリケーションが 2 台目の仮想サーバーだけに配備されている場合、この仮想サーバーにはアクセスできません。これは、<code>host:port</code> の組み合わせで 1 台目の仮想サーバーが指定されているからです。</p> <p data-bbox="318 421 396 446">解決法</p> <p data-bbox="318 470 1296 526">仮想サーバーのホスト名と元のホスト名が同じにならないようにしてください。特に、同じ HTTP リスナーを使用する場合には注意が必要です。</p>
4734969	<p data-bbox="318 543 1296 567">Bean パッケージ内の Query クラスでアプリケーションを配備できない</p> <p data-bbox="318 591 1296 678">コンテナ管理持続 (CMP) の <code>code-gen</code> は、<code>concreteImpl</code> 内で JDO Query 変数の完全修飾名を使用しません。Query クラスが抽象 Bean と同じパッケージに格納されている場合は、コンパイルエラーが発生します。</p> <p data-bbox="318 696 396 720">解決法</p> <p data-bbox="318 744 829 769">Query クラスを別のパッケージに移動させます。</p>
4750461	<p data-bbox="318 786 1296 810">Solaris で、動的再読み込み時に Sun ONE Application Server がクラッシュする</p> <p data-bbox="318 835 1296 947">エンタープライズ Bean 数の多い大規模なアプリケーションを動的に読み込もうとすると、クラッシュが発生する場合があります。動的再読み込み機能は、開発環境で、アプリケーションのマイナーチェンジを迅速にテストするために使用されます。許可されているよりも多くのファイル記述子を使用しようとすると、クラッシュが発生します。</p> <p data-bbox="318 965 396 989">解決法</p> <ol data-bbox="318 1013 1296 1192" style="list-style-type: none"><li data-bbox="318 1013 1296 1069">1. <code>/etc/system</code> ファイルに、形式を変えずに次の行を追加して、使用可能なファイル記述子の数を増やします。アプリケーションのサイズによって値を調節できます。<pre data-bbox="344 1090 632 1145">set rlim_fd_max=8192 set rlim_fd_cur=2048</pre><li data-bbox="318 1166 629 1190">2. システムを再起動します。

ID	要約
4744128	<p data-bbox="239 239 1039 270">EJB コンパイラで、内部クラス用の有効な Java コードを生成できない</p> <p data-bbox="239 288 1210 347">内部クラス型を戻すエンタープライズ Bean を実装する場合、EJB コンパイラは有効な Java コードを生成できません。</p> <pre data-bbox="239 364 1182 847">public interface IStateServer { public StateProperties getProperties(String objectID, String variantName, IToken securityToken) throws RemoteException; public class StateProperties implements Serializable { public StateProperties() { } public String description = ""; public String owner = ""; public Date modifyTime = new Date(); public String accessPermissions = ""; } } public interface IStateServerEJB extends EJBObject, IStateServer { }</pre> <p data-bbox="239 868 839 899">注: <code>getProperties</code> メソッドは内部クラスを返します。</p> <p data-bbox="239 916 485 947">エラーの例を示します。</p> <pre data-bbox="239 965 1153 1041">D:\AppServer7a\appserv\domains\domain1\server1\generated\ejb\ j2ee-apps\smugglercom\spss\ssp\state\ejb\StateServerEJB_EJBObject Impl.java:133:</pre> <p data-bbox="239 1058 911 1117">内部クラスの合成名を直接使用することはできません。 <code>com.spss.ssp.state.IStateServer\$StateProperties</code></p> <p data-bbox="239 1135 911 1194">次のコードが生成されます。 <code>com.spss.ssp.state.IStateServer.StateProperties</code></p> <p data-bbox="239 1211 911 1270">次の内容は書き込まれません。 <code>com.spss.ssp.state.IStateServer\$StateProperties</code></p> <p data-bbox="239 1288 314 1319">解決法</p> <p data-bbox="239 1336 1016 1367"><code>StateProperties</code> を内部クラス以外の独立したクラスに移動させます。</p>

appclient スクリプト

この節では、appclient スクリプトに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4925548	appclient スクリプトが JDK 1.4.2 で動作しない
	解決法 JDK 1.4.1_04 を使用すると、appclient スクリプトが正常に動作します。

ベリファイア

この節では、ベリファイアに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4742545	スタンドアロンベリファイアから EJB クラスが見つからないというエラーが報告される
	「EJB クラスが見つかりません」というメッセージが表示され、テストに失敗することがあります。EJB JAR ファイルによって使用されるエンタープライズ Bean が、同一の EAR アプリケーション内の別の EJB JAR ファイル内にあるその他のエンタープライズ Bean を参照する場合、テスト時に障害が発生します。コネクタ (RAR) に依存する EAR ファイルを検証しようとした場合も、障害メッセージが表示されます。これは、RAR バンドルを、RAR バンドルファイルに依存するエンタープライズ Bean が格納されている EAR ファイル内にパッケージ化する必要がないからです。障害 (コネクタ関連の障害を除く) を報告するのは、スタンドアロンベリファイアだけです。配備コマンドや管理インタフェースによって呼び出されたベリファイアでは、この障害は報告されません。
	解決法 アプリケーション EAR のパッケージ化が正しいことを確認します。ユーティリティ JAR ファイルを使用している場合は、EAR ファイル内にパッケージ化されます。参照エラーを解決するには、asadmin または管理インタフェースを使って配備バックエンドからベリファイアを呼び出します。コネクタ関連の障害が発生する場合は、ベリファイアのクラスパスに、必要なクラスを持つ JAR ファイルを配置します。install_root/bin/verifier[.bat] ファイルを開き、JVM_CLASSPATH 変数の末尾に LOCAL_CLASSPATH 変数を追加できます。LOCAL_CLASSPATH 変数にローカルでクラスを追加したあと、ベリファイアを実行します。

ID	要約
4743480	<p data-bbox="239 244 1219 300">ベリファイアがローカルホームインタフェースのスーパーインタフェースで宣言されたメソッドを検出できない</p> <p data-bbox="239 322 1219 552">ベリファイアは、ローカルホームインタフェースが J2EE 仕様に準拠しているかどうかをテストします。ローカルホームインタフェースがスーパーインタフェースから派生したもので、必要なメソッドがスーパーインタフェースに宣言されている場合、<code>findByPrimaryKey</code> メソッドの一部のテストが失敗します。失敗したテストは、<code>HomeInterfaceFindByPrimaryKeyArg</code>、<code>HomeInterfaceFindByPrimaryKeyName</code>、<code>HomeInterfaceFindByPrimaryKeyReturn</code>、<code>PrimaryKeyClassOpt</code> という名前のテストによって実行されたものです。モジュールやアプリケーションで <code>-verify</code> オプションを使用すると、配備にも失敗します。</p> <p data-bbox="239 574 315 598">解決法</p> <p data-bbox="239 621 1219 734">関数がローカルホームインタフェースのスーパーインタフェースに正しく宣言されている場合、テスト結果は無視してかまいません。この場合、配備コマンドに <code>-verify</code> オプションを指定しないでください。配備は正しく完了します。派生したホームインタフェース内に同じ関数を宣言すれば、検証は成功します。</p>

設定

- `java-config` 要素の `env-classpath-ignored` 属性のデフォルト値は `true`
- このリリースでは実装されない
 - `server.xml` ファイルの `java-config` 要素の `bytecode-preprocessors` 属性 (将来のパフォーマンスパッチで提供される予定)
- このリリースでは推奨されない
 - `is-cache-overflow-allowed`
 - `max-wait-time-in-millis`
- J2EE 1.4 アーキテクチャの変更により、将来のリリースではサポートされない要素がある
 - `mdb-container` 要素の `cmt-max-runtime-exceptions` プロパティ

次の表に、Sun ONE Application Server 7 の設定に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4742559	<p data-bbox="315 314 1056 355">IPv6 を使用しないネットワークでは、この問題による影響はない</p> <p data-bbox="315 361 1142 402">注: IPv6 を使用しないネットワークでは、この問題による影響はありません。</p> <p data-bbox="315 407 1285 529">Sun ONE Application Server は、デフォルトで IPv4 を使用します。これは、Sun ONE Application Server を使用できるすべてのプラットフォームでサポートされています。特定のプラットフォームでは、IPv6 がサポートされています。このようなプラットフォームでは、Sun ONE Application Server の設定を変更する必要があります。</p> <p data-bbox="315 534 1299 633">注: 設定を変更する場合は、プラットフォームで IPv6 が確実にサポートされることを確認してください。IPv4 しかサポートしないシステムに IPv6 関連の設定を適用すると、サーバーインスタンスが起動しなくなることがあります。</p> <p data-bbox="315 642 399 683">解決法</p> <p data-bbox="315 689 714 730">次の手順に従って設定を変更します。</p> <ol data-bbox="315 736 1285 1407" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="315 736 642 777">1. 管理サーバーを起動します。 <li data-bbox="315 782 1285 841">2. 管理インタフェースを起動します (ブラウザに HTTP ホスト名とポート名を指定し、管理サーバーに接続)。 <li data-bbox="315 847 1285 888">3. IPv6 用に設定するアプリケーションサーバーインスタンスを選択します (server1 など)。 <li data-bbox="315 894 913 935">4. ツリービューで HTTP リスナーノードを展開します。 <li data-bbox="315 940 1099 982">5. IPv6 用に設定する HTTP リスナーを選択します (http-listener1 など)。 <li data-bbox="315 987 1042 1029">6. 「一般」の「IP アドレス」フィールドの値を ANY に変更します。 <li data-bbox="315 1034 1028 1076">7. 「詳細」の「ファミリー」フィールドの値を INET6 に変更します。 <p data-bbox="315 1081 1299 1180">「ファミリー」フィールドの値を INET6 に変更しても、IP アドレスとして IPv6 アドレスを選択しないかぎり、IPv4 の機能は有効です。「IP アドレス」の値が ANY の場合、IPv4 と IPv6 の両方のアドレスが有効になります。</p> <ol data-bbox="315 1185 1185 1407" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="315 1185 642 1227">8. 「保存」をクリックします。 <li data-bbox="315 1232 928 1274">9. 左側のペインで、サーバーインスタンスを選択します。 <li data-bbox="315 1279 714 1321">10. 「変更の適用」をクリックします。 <li data-bbox="315 1326 642 1367">11. 「停止」をクリックします。 <li data-bbox="315 1373 1185 1414">12. 「起動」をクリックします。サーバーが再起動し、変更内容が有効になります。

配備記述子

この節では、配備記述子に関する既知の問題を示します。

sun-cmp-mapping.xml の問題

- このリリースでは実装されない
 - check-modified-at-commit
 - lock-when-modified

sun-ejb-jar.xml の問題

- このリリースでは推奨されない
 - is-cache-overflow-allowed
 - max-wait-time-in-millis

監視

この節では、監視に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4734595	<p>失敗した接続の合計数を確認するテストで、値が表示されない リファレンス実装 (RI) 内のダブルプーリングによって発生する問題です。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4737227	<p>http-server で FlagAsyncEnabled の値が 1 に設定されない Sun ONE Web Server の既知の問題です。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4752199	<p data-bbox="319 239 1286 298"><code>getPrimaryKey()</code>、<code>getEJBMetaData()</code>、<code>getHomeHandle()</code> メソッドでは、監視 Bean メソッドの属性値が表示されない</p> <p data-bbox="319 319 1286 402">監視ツールで、エンタープライズ Bean 内の監視可能なメソッドを確認できます。<code>getPrimaryKey()</code>、<code>getEJBMetaData()</code>、<code>getHomeHandle()</code> メソッドについては、メソッドレベルの監視属性の値が常に 0 になります。</p> <p data-bbox="319 423 394 447">解決法</p> <p data-bbox="319 468 362 493">なし</p>

サーバーの管理

この節では次の項目について説明します。

- [コマンド行インタフェース \(CLI\)](#)
- [管理インフラストラクチャ](#)
- [管理インタフェース](#)

コマンド行インタフェース (CLI)

この節では、コマンド行インタフェースに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4676889	<p data-bbox="239 361 1225 418">シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、オーバーフローが発生する</p> <p data-bbox="239 439 1225 496">UNIX では、シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、コマンドの実行に失敗し、「コマンドが見つかりません」というエラーが表示されます。</p> <p data-bbox="239 517 772 543">これは端末の問題で、CLI の制限ではありません。</p> <p data-bbox="239 564 265 590">例</p> <pre data-bbox="239 609 1225 777">create-jdbc-connection-pool --instance server4 --datasourceuser admin --datasourcepassword adminadmin --datasourceclassname test --datasourceurl test --minpoolsize=8 --maxpoolsize=32 --maxwait=60000 --poolresize=2 --idletimeout=300 --connectionvalidate=false --validationmethod=auto-commit --failconnection=false --description test sample_connectionpoolid)</pre> <p data-bbox="239 798 315 824">解決法</p> <ol data-bbox="239 845 1225 977" style="list-style-type: none"> 1. 実行するコマンドの文字数が 256 文字を超える場合は、マルチモードを使用してください。 2. シングルモードを使用する必要がある場合は、OpenWindows コマンドツール (cmdtool) を使ってコマンドを実行してください。
4680409	<p data-bbox="239 998 1225 1055">SSL を使用するように設定したあと、CLI からブラウザクライアントからも管理サーバーにアクセスできない</p> <p data-bbox="239 1076 315 1102">解決法</p> <p data-bbox="239 1123 1225 1232">SSL を使って管理サーバーにアクセスする各クライアントに Sun ONE Application Server 証明書を実インストールし、この証明書を持ったサーバーが信頼できるサーバーであると規定します。証明書をインポートして信頼を獲得する方法は、ブラウザによって異なります。詳細については、ご使用のブラウザのオンラインヘルプを参照してください。</p> <p data-bbox="239 1253 1225 1310">CLI では、サーバーの証明書が servercert.cer ファイル内にあり、インストールディレクトリが /INSTALL である場合、次のコマンドを実行します。</p> <pre data-bbox="239 1331 1096 1385">keytool -import -file servercert.cer -alias server -keystore /INSTALL/jdk/jre/lib/security/cacerts</pre> <p data-bbox="239 1406 1225 1463">注: この問題の発生を防止するには、管理サーバーが SSL を使用するように設定する前に、サーバーとクライアントの両方に管理サーバーの証明書をインストールしておきます。</p>

ID	要約
4688386	<p data-bbox="319 239 1293 300">シングルモードの CLI コマンドでアスタリスク (*) を使用すると、予期しない結果になる。または、エラーメッセージが表示される</p> <p data-bbox="319 317 1293 435">アスタリスクは、シェルによって複数の名前のリストに変換されます。コマンド行インタフェース (CLI) コマンドは、このリストの情報を受け取ります。複数の名前のリストに変換されるのを防ぐには、アスタリスクを引用符で囲みます。この場合、CLI はアスタリスクそのものを受け取ります。</p>
	<p data-bbox="319 453 396 477">解決法</p>
	<p data-bbox="319 494 876 520">アスタリスクを引用符または二重引用符で囲みます。</p>
4701361	<p data-bbox="319 538 1293 571">変更を繰り返し適用するとメモリ不足エラーになる</p> <p data-bbox="319 590 1293 649">管理サーバーは、メモリを使用して、システム的全変更記録を保持しています。再設定を行うと、この変更記録 (変更内容自体ではない) は破棄され、メモリが解放されます。</p>
	<p data-bbox="319 666 396 690">解決法</p>
	<p data-bbox="319 708 1193 734">asadmin reconfig コマンドを定期的に行い、古い変更記録を破棄してください。</p>
4704328	<p data-bbox="319 751 1293 784">重複したドメインを作成する呼び出しに失敗したとき、クリーンアップが行われない</p> <p data-bbox="319 803 1293 921">既存のドメインと重複するドメインを作成すると、適切なエラーメッセージが生成されません。しかし、create-domain コマンドの -path オプションで指定されたディレクトリが作成されます (同じ名前のディレクトリが存在しない場合)。これを削除しないと、コマンドの実行に失敗します。</p>
	<p data-bbox="319 939 396 963">解決法</p>
	<p data-bbox="319 980 1276 1039">-path オプションによって作成されたと思われる余分な空ディレクトリをすべて削除します。</p>
4708813	<p data-bbox="319 1057 1293 1090">デフォルト (pointbase) 接続プール JDBC リソースを監視できない</p> <p data-bbox="319 1109 1293 1194">JDBC 接続プールは、オンデマンドで動的に作成されます。つまり、プールは初めて使用するとき作成されます。プールが作成されていない (使用されていない) 場合、監視を行うことはできません。</p>
	<p data-bbox="319 1211 396 1236">解決法</p>
	<p data-bbox="319 1253 544 1279">解決法はありません。</p>

ID	要約
4722007	<p data-bbox="239 239 811 267">監視: 1 ミリ秒よりも短い実行時間を測定できない</p> <p data-bbox="239 284 1205 343">エンティティ Bean メソッドを監視しているとき、<code>execution-time-millis</code> 属性の値が -1 になります。たとえば、次のコマンドを実行するとします。</p> <pre data-bbox="239 361 1225 475">iasadmin>get -m server1.application.usecase1app.ejb-module.UseCase1Ejb_jar.entity-bea n.BeanOne .bean-method.method_create0.*</pre> <p data-bbox="239 493 486 520">次の属性が戻されます。</p> <pre data-bbox="239 538 1168 770">Attribute name = total-num-errors Value = 0 Attribute name = method-name Value = public abstract com.iplanet.ias.perf.jts.UseCase1.ejb.BeanOneRemote com.iplanet.ias.perf.jts.UseCase1.ejb.BeanOneHome.create() throws javax.ejb.CreateException, java.rmi.RemoteException Attribute name = total-num-calls Value = 0 Attribute name = total-num-success Value = 0 Attribute name = execution-time-millis Value = -1</pre> <p data-bbox="239 788 1219 902">監視を開始する前に、<code>execution-time-millis</code> のデフォルト値は -1 に設定されます。これは、その時点で属性値を無効にするためです。このように非常に低い値が設定されるのは、デフォルト値が 0 になっていると、すでに実行時間が測定されていたと誤って判断されるからです。</p> <p data-bbox="239 920 315 947">解決法</p> <p data-bbox="239 965 462 992">解決法はありません。</p>
4733109	<p data-bbox="239 1010 1219 1069">コマンド行インタフェースで作成した持続マネージャファクトリリソースを表示しているとき、管理インタフェースにペリファイアのエラーが報告される</p> <p data-bbox="239 1086 1190 1145">コマンド行インタフェースで作成された持続マネージャファクトリリソースを管理インタフェースに表示しているとき、リソースに関する次のエラーが報告されます。</p> <pre data-bbox="282 1163 1219 1222">ArgChecker Failure: Validation failed for jndiName: object must be non-null</pre> <p data-bbox="239 1239 315 1267">解決法</p> <p data-bbox="239 1284 462 1312">解決法はありません。</p>

ID	要約
4742993	<p data-bbox="314 225 1338 295">Solaris で、Solaris に統合されている Sun ONE Application Server 上で flexanlg コマンドを使用すると、オープン障害が発生する</p> <p data-bbox="314 312 1338 399">Solaris オペレーティング環境に統合されている Sun ONE Application Server を実行している場合、<code>/usr/appserver/bin</code> から <code>flexanlg</code> コマンドを実行すると、オープン障害エラーが発生します。</p> <pre data-bbox="314 416 1338 503">ld.so.1: /usr/appserver/bin/flexanlg: fatal: libplc4.so: open failed: No such file or directory Killed</pre> <p data-bbox="314 520 1338 555">解決法</p> <p data-bbox="314 572 1338 607">次の手順を実行してください。</p> <ol data-bbox="314 616 1338 651" style="list-style-type: none">1. <code>LD_LIBRARY_PATH</code> ファイルに次のエントリを追加します。 <pre data-bbox="314 659 1338 694">/usr/lib/mps</pre> <ol data-bbox="314 703 1338 737" style="list-style-type: none">2. <code>flexanlg</code> コマンドを実行します。 <pre data-bbox="314 746 1338 781">% /usr/appserver/bin/flexanlg</pre>
4750518	<p data-bbox="314 781 1338 815">ターゲット管理サーバー上で一部の CLI コマンドが動作しない</p> <p data-bbox="314 833 1338 920">ターゲット管理サーバーの CLI では、<code>create</code>、<code>delete</code>、<code>list</code> コマンドを使って、管理サーバーの <code>server.xml</code> ファイル内で新しい要素 (SSL、mime、プロファイラ、リソースなど) を作成、削除、一覧表示することができません。</p> <p data-bbox="314 937 1338 972">解決法</p> <p data-bbox="314 989 1338 1062">管理サーバー内で要素を作成、削除、一覧表示するには、管理インタフェースを使用します。</p>

管理インフラストラクチャ

この節では、管理インフラストラクチャに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4676888	<p data-bbox="239 361 1249 387">Microsoft Windows 2000 では、JVM ヒープサイズが大きいと JVM を作成できない</p> <p data-bbox="239 409 1249 465">Windows 2000 で JVM ヒープサイズを大きくしようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="239 484 896 565">Error occurred during initialization of VM, Could not reserve enough space for object heap Internal error: unable to create JVM</pre> <p data-bbox="239 590 315 616">解決法</p> <p data-bbox="239 637 1249 692">Windows 2000 で、Sun ONE Application Server の JAVA ヒープサイズを大きくするには、Sun ONE Application Server の DLL を再設定 (rebase) する必要があります。</p> <p data-bbox="239 713 1249 855">Microsoft Framework SDK と Microsoft Visual Studio に付属している Rebase ユーティリティを使って、複数の DLL に、アドレスから始まる (JVM ヒープの可用性を向上させる) 最適なベースアドレスを設定できます。SDK Help Rebase トピックでは、アドレス 0x6000000 の使用を推奨しています。Rebase ユーティリティの詳細については、次の URL を参照してください。</p> <p data-bbox="287 874 1249 930">http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/tools/tools/performance_tools.asp</p> <p data-bbox="239 951 287 977">要件</p> <ul data-bbox="239 996 1065 1065" style="list-style-type: none">• 2 ~ 4G バイトのメモリを持つ Windows 2000 システム• Visual Studio または Microsoft Framework SDK の Rebase ユーティリティ <p data-bbox="239 1085 1249 1140">S1AS 動的ライブラリに Rebase ユーティリティを適用するには、次の手順に従ってください。</p> <ol data-bbox="239 1159 822 1331" style="list-style-type: none">1. cd コマンドを使って <code>install_dir\bin</code> に移動します。2. <code>rebase -b 0x6000000 *.dll</code>3. <code>cd ../lib</code>4. <code>rebase -b 0x6600000 *.dll</code>

ID	要約
4686003	<p data-bbox="319 239 714 263">HTTP の QOS 制限が適用されない</p> <p data-bbox="319 288 1308 374">サービス品質 (QOS) では、最大 HTTP 接続数と帯域幅を指定できます。これらの属性の制限値を超えると、クライアントに 503 エラーが戻されます。しかし、管理インタフェースを使って QOS を有効にすると、サーバーは QOS の制限を適用しなくなります。</p> <p data-bbox="319 395 396 420">解決法</p> <p data-bbox="319 440 1308 557">QOS 機能をすべて有効にするには、仮想サーバーの <code>obj.conf</code> ファイル内のデフォルトオブジェクトの先頭に <code>AuthTrans fn=qos-handler</code> 行を手動で追加します。qos-handler サーバーアプリケーション関数 (SAF) と <code>obj.conf</code> 設定ファイルについては、『Developer's Guide to NSAPI』を参照してください。</p>
4692673	<p data-bbox="319 574 1308 633">デバッグモード以外のモードで実行していたインスタンスをデバッグモードで再起動すると、失敗することがある</p> <p data-bbox="319 654 1308 800">「デバッグモードで起動または再起動」チェックボックスをオフにした状態でインスタンスを起動すると、このチェックボックスに関連した設定が機能しなくなります。たとえば、管理インタフェースで「デバッグを有効」チェックボックスを選択しても、チェックボックスはオンになりません。server.xml ファイルの <code>debug-enabled</code> 行の値も <code>false</code> になります (<code>debug-enabled=false</code>)。</p> <p data-bbox="319 821 396 845">解決法</p> <p data-bbox="319 866 544 890">解決法はありません。</p>
4699450	<p data-bbox="319 907 1308 966">Microsoft Windows 2000 で EAR ファイルを配備する際、生成されたファイルのパスの長さが全体で 260 文字を超えると失敗する</p> <p data-bbox="319 987 1308 1074">Windows 2000 では、Java 仮想マシン (JVM) の制限により、生成されたファイルのパス名は 260 文字以下と定められています。これは、JVM の Microsoft Windows サポートに関する問題であり、J2SE 1.5 リリースで修正される予定です。</p> <p data-bbox="319 1095 396 1119">解決法</p> <p data-bbox="319 1140 1308 1192">アプリケーションを配備するとき、パスとファイル名の文字数の合計が 260 文字以内に収まるようにします。</p>

ID	要約
4723776	<p data-bbox="239 239 1029 269">Solaris で、SSL 対応の環境に移行すると、サーバーの起動に失敗する</p> <p data-bbox="239 286 1222 434">証明書をインストールし、セキュリティを有効にしたあと、Sun ONE Application Server を再起動しようとするとき失敗します。サーバーがパスワードの受け取りに失敗したというメッセージが表示されます。「起動」ボタンを再度クリックすると、サーバーが起動します。SSL が有効になっていないと、パスワードがキャッシュに格納されず、再起動に失敗します。restart コマンドは、非 SSL モードから SSL モードへの移行をサポートしません。</p> <p data-bbox="239 451 1222 512">注: この問題は、サーバーを初めて再起動するときだけ発生します。2 回目以降の再起動は正常に行われます。</p> <p data-bbox="239 529 315 558">解決法</p> <p data-bbox="239 576 821 605">この問題が発生したら、次のことを行なってください。</p> <ul data-bbox="275 623 559 652" style="list-style-type: none">「起動」をクリックします。 <p data-bbox="239 670 1203 722">この問題が発生するのを防ぐには、「再起動」ボタンをクリックしないで、次の手順を実行してください。</p> <ul data-bbox="275 739 559 798" style="list-style-type: none">「停止」をクリックします。「起動」をクリックします。
4724780	<p data-bbox="239 815 1018 845">別のシステムで作成されたドメインでは管理サーバーを起動できない</p> <ul data-bbox="289 862 1222 1067" style="list-style-type: none">• PCNFS がマウントされたドライブで作成されたドメインでは、PCNFS ドライブに関する Microsoft の既知の問題により、管理サーバーとその他のインスタンスを起動できません。• ディレクトリパスが異なっても、製品がインストールされているローカルドライブで作成されたドメインであれば、管理サーバーもインスタンスも正常に動作します。 <p data-bbox="239 1085 315 1114">解決法</p> <p data-bbox="239 1131 464 1161">解決法はありません。</p>
4734184	<p data-bbox="239 1178 946 1208">Microsoft Windows 2000 でコンソールが無効になることがある</p> <p data-bbox="239 1225 1222 1312">まれに、配備時やコマンドの実行時に管理サーバーやアプリケーションサーバーインスタンスがハングアップすることがあります。この問題は、コンソールログのテキストが選択されている場合に発生します。テキストの選択を解除すれば、処理は続行します。</p> <p data-bbox="239 1329 315 1359">解決法</p> <p data-bbox="239 1376 1222 1463">log-service create-console 属性を false に設定して、server1 インスタンスのコンソール自動作成機能を無効にします。コンソールログ上でマウスボタンをクリックするか Enter キーを押しても問題を解決できます。</p>

ID	要約
4736554	<p data-bbox="319 239 1290 300">サーバーから安全な HTTP リスナーを削除したあとも、(もう存在しない)パスワードの入力を求めるプロンプトが表示される</p> <p data-bbox="319 317 396 341">解決法</p> <p data-bbox="319 366 758 390">サーバー全体を削除し、追加し直します。</p> <p data-bbox="319 414 1290 475">注: この問題の発生を防止するには、HTTP リスナーを削除する前に、次のコマンドを使ってセキュリティの設定を無効にします。</p> <pre data-bbox="319 487 1276 661">/export2/build/bin/> asadmin set --user admin --password adminadmin server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=false Attribute securityEnabled set to false. /export2/build/bin/> asadmin delete-http-listener --user admin --password adminadmin ls2 Deleted Http listener with id = ls2</pre>
4737756	<p data-bbox="319 678 1176 703">Microsoft Windows 2000 で、コンソールにメッセージが正しく表示されない</p> <p data-bbox="319 727 1308 788">Windows 2000 の英語以外のロケール (日本語ロケールなど) では、コンソールにメッセージが正しく表示されないことがあります。</p> <p data-bbox="319 805 396 829">解決法</p> <p data-bbox="319 854 948 878">管理インターフェースを使ってログメッセージを表示します。</p>

ID	要約
4739831	<p data-bbox="239 244 1222 302">インスタンスの一部が削除されていると、一部の CLI コマンドから正しい応答を得ることができない</p> <p data-bbox="239 324 1196 380">サーバーインスタンスの一部が削除されていると、一部の CLI コマンドで問題が発生します。以下に、問題とその解決方法を示します。</p> <ol data-bbox="239 401 1213 456" style="list-style-type: none">1. <code>create-instance</code> をローカルモードで実行すると、サブディレクトリが存在していない場合も、インスタンスフォルダ内にインスタンスが存在すると報告される <p data-bbox="239 477 315 499">解決法</p> <p data-bbox="239 520 1203 576">インスタンスディレクトリを手動で削除してから <code>create-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol data-bbox="239 597 1222 652" style="list-style-type: none">2. <code>list-instances</code> コマンドをローカルモードで実行すると、インスタンス名と状態情報が一部削除された状態で出力される <p data-bbox="239 673 315 696">解決法</p> <p data-bbox="239 716 1208 739">インスタンスディレクトリを手動で削除してから <code>list-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol data-bbox="239 760 1203 815" style="list-style-type: none">3. Microsoft Windows 2000 で、<code>start-instance</code> コマンドをリモートモードで実行すると、<code>null</code> 文字列が表示される <p data-bbox="239 836 315 859">解決法</p> <p data-bbox="239 880 1096 935">インスタンスディレクトリを手動で削除し、新しいインスタンスを作成してから <code>start-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol data-bbox="239 956 1219 1071" style="list-style-type: none">4. Microsoft Windows 2000 で <code>stop-instance</code> コマンドをローカルモードまたはリモートモードで実行すると、不正な例外が報告されるローカルモードでは、インスタンスが実行されていないという不正なメッセージが表示されます。リモートモードでは、<code>null</code> 文字列が表示されます。 <p data-bbox="239 1091 1222 1177">Solaris で、<code>stop-instance</code> コマンドをローカルモードで実行すると、実際には <code>config</code> というディレクトリは存在しないのに、インスタンスの <code>config</code> ディレクトリにアクセスするアクセス権がないというメッセージが表示されます。</p> <p data-bbox="239 1197 315 1220">解決法</p> <p data-bbox="239 1241 751 1263">インスタンスディレクトリを手動で削除します。</p>
4739891	<p data-bbox="239 1289 1222 1374">仮想サーバーによって参照されるデフォルトの Web モジュールが存在しない場合、またはこのモジュールの配備が取り消された場合、仮想サーバーを削除しようとすると失敗する</p> <p data-bbox="239 1395 315 1418">解決法</p> <p data-bbox="239 1439 1208 1524">仮想サーバーの「デフォルト Web モジュール」フィールドの値を「何も選択されていません」に設定し、「了解」をクリックして変更内容を保存します。その後、仮想サーバーを削除します。</p>

ID	要約
4740022	<p>SNMP: 新しいインスタンスサーバーを追加して起動すると、END OF MIB メッセージが表示される</p> <p>インスタンスサーバーとサブエージェントをシャットダウンしないで新しいインスタンスを追加し、起動すると、END OF MIB メッセージが表示されます。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. 新しいインスタンスを表示するには、サブエージェントとすべてのインスタンスサーバープロセスをシャットダウンします。各サーバーで、「監視」の「SNMP 統計収集を有効」をオンに設定します。その後、各インスタンスサーバーを再起動し、サブエージェントプロセスを1つだけ再起動します。2. サブエージェントがすでに実行中の場合は、これ以上起動しないでください。Sun ONE Application Server をインストールするときは、必ずマスターエージェントとサブエージェントを1個ずつ使用します(全ドメイン、全インスタンスに共通)。
4737138	<p>Microsoft Windows Services や DOS プロンプトにライセンスの有効期限切れを示すメッセージが表示されない</p> <p>ライセンスの有効期限が切れたあと、Windows Services や DOS プロンプトコマンド (startserv.bat) を使ってサーバーを起動すると、ライセンスの有効期限切れを示すメッセージが表示されません。</p> <p>解決法 CLI (asadmin) または Sun のプログラムアイコンからサーバーを起動します。</p>
4780488	<p>複数の obj.conf ファイルが存在すると、混乱が生じる</p> <p>Sun ONE Application Server インスタンスを作成すると、<i>instance-dir/config/</i> ディレクトリに <i>obj.conf</i> と <i>virtual-server-name-obj.conf</i> と呼ばれる2つの <i>obj.conf</i> ファイルが格納されます。<i>virtual-server-name</i> はインスタンスの作成時に自動的に作成される仮想サーバーのインスタンス名です。このマニュアルでは、対象の仮想サーバーと関連する <i>obj.conf</i> ファイルを変更することを、「<i>obj.conf</i> ファイルの変更」と表現します。</p> <p>Sun ONE Application Server がインストールされている場合、<i>obj.conf</i> と <i>server1-obj.conf</i> ファイルは <i>/domains/domain1/server1/config/</i> ディレクトリに格納されます。<i>obj.conf</i> ファイルの内容は仮想サーバーレベルで指定された <i>server1-obj.conf</i> ファイルの内容に置き換えられます。Sun ONE Application Server インスタンスは <i>obj.conf</i> を使用しません。</p> <p>たとえば、Web サーバープラグインを使って Sun ONE Application Server を設定する際、<i>obj.conf</i> ファイルを変更すると、不正な <i>obj.conf</i> ファイルが変更されるので、パスルー設定が有効になりません。</p> <p>解決法</p> <p><i>obj.conf</i> ファイルを変更する場合は、<i>obj.conf</i> の前に対象の仮想サーバー名が付加されたファイルを変更します。</p>

ID	要約
4938319	<p>SSL および Web Server (逆プロキシ) プラグインを使用しているときにエラーが発生する</p> <p>SSL および Web Server プラグインを使用しているときに、502 エラーが発生します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Web Server の <code>magnus.conf</code> ファイルと Sun ONE Application Server の <code>init.conf</code> ファイルの <code>keepAliveTimeout</code> 値を同じ値に設定します。これらの値が異なっていると、Application Server から Web Server に接続しているとき、または Web Server から Application Server に接続しているときに、接続が閉じることがあります。接続がすでに閉じている場合は、502 エラーが表示されます。</p>

管理インタフェース

管理インタフェースを使用するときは、ブラウザがキャッシュからではなくサーバーから最新のページを取り出す設定になっているかどうかを確認してください。一般に、デフォルトのブラウザ設定では問題は発生しません。

- Internet Explorer では、「ツール」->「インターネットオプション」->「設定」を選択し、「保存しているページの新しいバージョンの確認」で「確認しない」が選択されていないことを確認します。
- Netscape では、「編集」->「設定」->「詳細」->「キャッシュ」を選択し、「キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較」で「しない」が選択されていないことを確認します。

この節では、Sun ONE Application Server 7 の管理用グラフィカルユーザーインタフェースに関する既知問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4722607	<p>Microsoft Windows 2000 では、新しく作成された MIME ファイルに <code>.types</code> 拡張子が付いていないと、このファイル内のエントリを編集または削除できない</p> <p>Windows 2000 では、MIME ファイル名に必ず <code>.types</code> 拡張子を付けます。そうしないと、ファイル内のエントリを編集できません。MIME ファイル名は、<code>mime2</code> ではなく <code>mime2.types</code> のようになります。</p> <p>解決法</p> <p>MIME ファイル名には必ず <code>.types</code> 拡張子を付けてください。</p>

ID	要約
4725473	管理インタフェースのニックネームリストに外部証明書のニックネームが表示されない

Sun ONE Application Server 管理インタフェースを使って外部証明書をインストールした場合、外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書を使って HTTP リスナーで SSL を有効にしようとする問題が発生します。証明書は正しくインストールされていますが、管理インタフェースに証明書のニックネームが表示されません。

解決法

1. 管理ユーザーとして、Sun ONE Application Server のインストールマシンにログインします。
2. HTTP リスナーと外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書をリンクします。asadmin コマンドを実行します。asadmin コマンドの詳細については、asadmin(1M) のマニュアルページを参照してください。

```
/sun/appserver7/bin/asadmin create-ssl
--user admin --password password
--host host_name
--port 8888
--type http-listener
--certname nobody@apprealm:Server-Cert
--instance server1
--ssl3enabled=true
--ssl3tlsciphers +rsa_rc4_128_md5
http-listener-1
```

このコマンドは、証明書とサーバーインスタンスをリンクします。証明書のインストールは行いません (証明書は管理インタフェースを使用してインストール済み)。証明書と HTTP リスナーのリンクは確立されていますが、HTTP リスナーは SSL 以外のモードで待機します。

3. 次の CLI コマンドを使って、HTTP リスナーが SSL モードで待機するように設定します。

```
/sun/appserver7/bin/asadmin set
--user admin
--password password
--host host_name
--port 8888
server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=true
```

このコマンドは、サーバーインスタンスの待機モードを SSL 以外のモードから SSL へ切り替えます。

上記の手順が完了すると、管理インタフェースに証明書が表示されます。

4. これで、管理インタフェースを使って HTTP リスナーを編集できる状態になりました。
-

ID	要約
4728718	<p data-bbox="239 241 1213 300">新しい仮想サーバーを作成し、ログファイルの場所を示す値を指定すると、「ファイルが見つかりません」というエラーが報告される</p> <p data-bbox="239 319 1035 343">管理インタフェースのログファイルフィールドでは、値を追加できません。</p> <p data-bbox="239 366 315 390">解決法</p> <p data-bbox="239 413 1213 472">作成した仮想サーバーをいったん削除し、必要なファイルを作成します。その後、再度仮想サーバーを作成します。</p> <p data-bbox="239 491 1213 539">注: この問題の発生を防止するには、新しい仮想サーバーを作成する前にログファイルを作成するようにします。</p>
4741123	<p data-bbox="239 562 1213 621">Solaris 9 update 2 のデフォルトのブラウザは、Sun ONE Application Server 7 と互換性がない</p> <p data-bbox="239 644 1213 703">Solaris 9 4/03 オペレーティング環境のデフォルトのブラウザで Sun ONE Application Server の管理インタフェースを使用しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p data-bbox="239 722 735 746">Unsupported Browser: Netscape 4.78.</p> <p data-bbox="239 765 1213 876">It is recommended that you upgrade your browser to Netscape 4.79 or Netscape 6.2 to run the Sun ONE Application Server UI. Those who choose not to continue and not upgrade might notice degraded performance and/or unexpected behavior.</p> <p data-bbox="239 895 1213 954">注: Solaris 9 4/03 オペレーティング環境に含まれている Sun ONE Application Server の管理インタフェースを実行中の場合は、Netscape 4.79 または 7.0 を使用する必要があります。</p> <p data-bbox="239 973 315 998">解決法</p> <ul data-bbox="239 1017 1213 1208" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 1017 1213 1107">• スタンドアロンの Sun ONE Application Server 7 用のブラウザを Netscape 4.79 あるいは Netscape 6.2 にアップグレードするには、<code>/usr/dt/bin/netscape</code> ではなく、<code>/usr/dt/bin/netscape6</code> を使います。<li data-bbox="239 1126 1213 1208">• Solaris にバンドルされている Sun ONE Application Server 7 用のブラウザを Netscape 4.79 あるいは Netscape 7 にアップグレードするには、<code>/usr/dt/bin/netscape</code> ではなく、<code>/usr/dt/appconfig/SUNWns/netscape</code> を使います。

ID	要約
4750616	<p data-bbox="319 239 1305 298">Netscape Navigator の一部のバージョンではアクセス制御リスト (ACL) の編集がサポートされない</p> <p data-bbox="319 319 1305 402">Netscape Navigator バージョン 6.x または 7.x の使用時に ACL エントリを編集しようとすると、ブラウザが表示されなくなる、ACL 編集画面が表示されないなどの問題が断続的に発生します。</p> <p data-bbox="319 423 396 447">解決法</p> <p data-bbox="319 468 662 493">次のいずれかの措置をとります。</p> <ul data-bbox="319 513 1305 618" style="list-style-type: none">• サポートされている Netscape Navigator 4.79 を使用します。• 手動で ACL ファイルを編集します。ACL ファイル形式の詳細については、『Sun ONE Application Server Administrator's Guide』を参照してください。
4752055	<p data-bbox="319 635 1225 659">Netscape 4.8 を使用すると、管理インタフェースに警告メッセージが表示される</p> <p data-bbox="319 680 1305 798">Netscape 4.8 を使って管理インタフェースにアクセスすると、Netscape 4.8 はサポートされていないブラウザであるという警告メッセージが表示されます。Netscape 4.8 で管理インタフェースを実行しても問題は確認されていませんが、より徹底したテストが必要とされています。</p> <p data-bbox="319 819 396 843">解決法</p> <p data-bbox="319 864 1305 916">引き続き管理インタフェースを使用する場合は、警告メッセージの「継続」リンクを選択します。</p> <p data-bbox="319 937 1045 961">Netscape 4.79 を使用するか、Netscape 6.2 にアップグレードします。</p>
4760714	<p data-bbox="319 982 1108 1006">「証明書インストール」画面に無効な「ヘルプ」ボタンが表示される</p> <p data-bbox="319 1027 1305 1145">「証明書インストール」画面には、入力された証明書情報が一覧表示されます。管理インタフェースのこの画面に無効な「ヘルプ」ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、ヘルプページが見つからないというエラーメッセージが表示されます。コンテキストヘルプを使用するには、ページ上部の「ヘルプ」リンクをクリックする必要があります。</p> <p data-bbox="319 1166 396 1190">解決法</p> <p data-bbox="319 1211 1256 1236">コンテキストヘルプを使用するには、ページ上部の「ヘルプ」リンクをクリックします。</p>
4760939	<p data-bbox="319 1260 1305 1319">SSL: 「証明書ニックネーム」に certutil によって生成された自動署名証明書が表示されない</p> <p data-bbox="319 1340 1305 1392">自動署名証明書が certutil によって生成されていると、管理インタフェースに「証明書ニックネーム」が表示されません。</p> <p data-bbox="319 1413 396 1437">解決法</p> <p data-bbox="319 1458 1305 1510">自動署名証明書を使用する場合は、server.xml ファイルを手動で編集する必要があります。</p>

ID	要約
4848146	<p>ブラウザでプロキシサーバーを使用している場合、管理インタフェースへアクセスするとエラーが発生する</p> <p>ブラウザがプロキシサーバーを使用するように設定されていて、そのプロキシサーバーでローカルホストを無視するように設定されていない場合、「スタート」メニューから「Start Admin Console」を選択するとエラーが発生します。</p> <p>解決法</p> <p>プロキシサーバーを無効にします。</p> <p>または</p> <p>プロキシサーバーで無視されるドメインのリストにローカルホストを追加します。</p>

Sun ONE Studio 4 プラグイン

この節では、Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition (旧称 Forte for Java) の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4689097	<p>Sun ONE Studio 4 によって使用されるディレクトリのパスに空白文字があるとエラーが発生する</p> <p>ディレクトリ構造に空白文字が含まれていると、Sun ONE Studio 4 が正常にインストールされません。インストーラはインストールパスの空白文字をチェックし、発見するとエラーダイアログを表示します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server の Sun ONE Studio 4 コンポーネントのインストールディレクトリを指定するときは、空白文字を使用しないでください。</p>
4720145	<p>デバッガへの接続中に ConnectionException がスローされる</p> <p>新しいデバッグセッションを作成するかどうかを確認するメッセージが繰り返し表示され、例外がスローされます。</p> <p>解決法</p> <p>IDE を再起動します。</p>

ID	要約
4727932	<p data-bbox="319 239 839 263">FFJ で MAD 環境を使用すると問題が発生する</p> <p data-bbox="319 288 1122 312">Sun ONE Studio 4 で MAD 設定を使用すると、断続的に問題が発生します。</p> <p data-bbox="319 336 396 361">解決法</p> <p data-bbox="319 385 955 407">Sun ONE Studio 4 では MAD 設定を使用しないでください。</p>
4733794	<p data-bbox="319 425 1090 449">アプリケーションノードに適用した ejb-name の変更を配備できない</p> <p data-bbox="319 473 1308 616">アプリケーションノードのコンテキストメニュー (右クリックメニュー) から「EJB 名を表示」を選択したときに表示されるダイアログを使って、アプリケーションのコンテキストで Bean の ejb-name 要素を変更できます。これらの変更は、パッケージ化の一環として作成された alt-dd に適用されます。名前の変更は Sun ONE Application Server の alt-dd には伝達されません。</p> <p data-bbox="319 640 396 664">解決法</p> <p data-bbox="319 689 544 711">解決法はありません。</p>
4725779	<p data-bbox="319 729 1168 753">事前に設定された Sun ONE 固有のプロパティ値がエディタに表示されない</p> <p data-bbox="319 777 1296 861">Sun ONE Application Server に配備するためにすでに設定された RAR ファイルがある場合、プロパティシートでこのファイルのプロパティ値を確認しようとする、デフォルトの値だけが表示されます。sun-ra.xml ファイルに指定された値は表示されません。</p> <p data-bbox="319 885 396 909">解決法</p> <p data-bbox="319 933 1296 982">RAR から Sun 固有の記述子 XML ファイルを抽出し、RAR と同じディレクトリに置きます。これで、slas 記述子を編集できるようになります。</p> <p data-bbox="319 1006 1308 1085">注: この方法でファイルを編集しても、RAR ファイルの元のコンテンツは変更されません。ただし、サーバーに送信された RAR ファイルには、更新された XML ファイルの内容が追加されます。</p>
4733794	<p data-bbox="319 1102 1058 1126">アプリケーションノードに適用した EJB 名の変更を配備できない</p> <p data-bbox="319 1150 1308 1293">アプリケーションノードのコンテキストメニュー (右クリックメニュー) から「EJB 名を表示」を選択したときに表示されるダイアログを使って、アプリケーションのコンテキストで Bean の ejb-name 要素を変更できます。これらの変更は、パッケージ化の一環として作成された alt-dd に適用されます。名前の変更は Sun ONE Application Server の alt-dd には伝達されません。</p> <p data-bbox="319 1317 396 1341">解決法</p> <p data-bbox="319 1366 544 1388">解決法はありません。</p>

ID	要約
4745283	<p data-bbox="239 244 1220 300">管理クライアントだけをインストールした場合、アプリケーションクライアントを実行できない</p> <p data-bbox="239 322 1220 406">管理クライアントまたは Sun ONE Studio プラグインだけをインストールした場合、アプリケーションクライアントを実行できません。アプリケーションクライアントは、管理クライアントとは別のパッケージです。</p> <p data-bbox="239 428 315 451">解決法</p> <p data-bbox="239 473 1220 588">アプリケーションクライアントパッケージをインストールします。このためには、<code>SUNONE_INSTALL_ROOT/bin</code> に格納されている <code>appclient</code> を使って完全インストールを実行するか、Sun ONE Application Server がインストールされているリモートマシンから <code>appclient</code> パッケージを取得します。</p> <p data-bbox="239 611 858 633"><code>appclient</code> パッケージを取得する方法は次のとおりです。</p> <ol data-bbox="239 656 1220 1065" style="list-style-type: none">1. <code>SUNONE_INSTALL_ROOT/bin/package-appclient [.bat]</code> を実行します。 <code>SUNONE_INSTALL_ROOT/lib/appclient/appclient.jar</code> に <code>appclient.jar</code> ファイルが生成されます。2. Sun ONE Application Server がインストールされていないリモートマシンに <code>appclient.jar</code> を配備し、<code>appclient.jar</code> を <code>unjar</code> します。アプリケーションクライアントライブラリと JAR ファイルが格納されているアプリケーションクライアントディレクトリが作成されます。3. <code>appclient.jar</code> ファイルに格納されている <code>bin/appclient</code> スクリプトを編集します。スクリプトを初めて使用する前に編集を済ませておいてください。<code>%CONFIG_HOME%</code> 文字列は <code>asenv.conf</code> の実際のパス (Windows 2000 の場合は <code>asenv.bat</code>) で置き換えられます。4. <code>asenv.conf</code> (Microsoft Windows 2000 の場合は <code>asenv.bat</code>) を次のように設定します。 <pre data-bbox="239 1088 1090 1229">%AS_INSTALL%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT %AS_JAVA%=Java がインストールされているディレクトリ %AS_IMQ_LIB%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/imq/lib %AS_ACC_CONFIG%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/config/sun-acc.xml %AS_WEBSERVICES_LIB%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/lib</pre> <p data-bbox="239 1251 1220 1366">注: <code>appclient.jar</code> ファイルは、このファイルが作成されたマシンと同じオペレーティングシステムを実行しているリモートマシンから実行しなければなりません。たとえば、Solaris プラットフォームで作成された <code>appclient.jar</code> は、Windows 2000 上では機能しません。</p> <p data-bbox="239 1388 1115 1411">詳細については、<code>package-appclient</code> のマニュアルページを参照してください。</p>

サンプルアプリケーション

- ANT ディレクトリ構造とともにサンプルアプリケーションソースが用意されています。ただし、Sun ONE Studio 用のアプリケーションではないので、EJB モジュールなどのアイコンは表示されません。サンプルの src フォルダをマウントすると、ソースファイルだけが表示されます。
- Sun ONE Studio は ANT 対応ですが、ANT ターゲットを使ってサンプルアプリケーションを配備することはできません。つまり、ANT target = all コマンドの実行結果と、シェルから ant all コマンドを実行したときの結果は同じにはなりません。
- 既存の ANT 型アプリケーションは、Sun ONE Studio (Sun ONE Studio の ANT) を使って正常にコンパイルできます。

この節では、Sun ONE Application Server 7, Update 2 のサンプルアプリケーションに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4714439	<p>PetStore では、すでに存在するユーザーを重複して追加することができない</p> <p>PetStore サンプルアプリケーションでは、すでに存在するユーザーを追加しようとすると、画面にスタックトレースが表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4726161	<p>変更されたサンプルは、再配備しないかぎり更新されない</p> <p>アプリケーションに小さな変更を加えて再パッケージ化してから、サンプルを再配備すると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p style="padding-left: 40px;">「Already Deployed」</p> <p>この問題は Ant ユーティリティと common.xml ファイルを使用しているサンプルで発生します。このユーティリティとファイルには配備ターゲットが存在するため、アプリケーションの配備とリソースの登録が混同されるのです。</p> <p>解決法</p> <p>次のいずれかの措置をとります。</p> <p>Ant ユーティリティ build.xml ファイルを使用するサンプルアプリケーションの多くには、common.xml ファイルが含まれています。この場合は、次のコマンドを入力してください。</p> <pre data-bbox="315 1402 621 1432">% asant deploy_common</pre> <p>それ以外のサンプルアプリケーションの場合は、次のコマンドを入力してください。</p> <pre data-bbox="315 1494 549 1555">% asant undeploy % asant deploy</pre>

ID	要約
4733412	<p data-bbox="239 239 1255 269">サンプルアプリケーションコンバータの Web モジュール内に余計な JAR ファイルがある</p> <p data-bbox="239 286 1255 373">コンバータアプリケーションの WEB-INF/lib ディレクトリ内に、余計なステートレスコンバータ EJB JAR ファイルがあります。EAR ファイルは、サンプルアプリケーションディレクトリ内にあります。バンドル版の Solaris ビルドでは、次の場所にあります。</p> <pre data-bbox="239 390 1255 420">/usr/appserver/samples/ejb/stateless/converter/stateless-converter.ear</pre> <p data-bbox="239 437 1255 555">このファイルを抽出して、stateless-converter という名前の Web モジュールの WEB-INF/lib ディレクトリに移動すると、余計な JAR ファイルが見つかります。この JAR ファイルは、EJB モジュールを呼び出すすべての Web モジュールに適用されます。問題の原因は、アプリケーションのビルド時に使用する common.xml ファイルにあります。</p> <p data-bbox="239 572 314 602">解決法</p> <p data-bbox="239 619 1255 651">解決法はありません。サンプルアプリケーションの実行時の機能には影響はありません。</p>
4739854	<p data-bbox="239 668 1255 697">asadmin を使ったリソースの配備方法の説明がない</p> <p data-bbox="239 715 1255 772">一部のサンプルのマニュアルには、asadmin コマンドを使ってアプリケーションを配備するようにと記述されているだけで、必要なりソースを作成する手順が記載されていません。</p> <p data-bbox="239 789 314 819">解決法</p> <p data-bbox="239 836 1255 923">asadmin コマンドを使ってアプリケーションまたはリソースを配備できます。サンプルの build.xml ファイルからは詳細情報を取得できます。詳細情報は、asant deploy の実行結果からも確認できます。</p> <p data-bbox="239 940 1255 1027">JDBC/BLOB の例の場合、次の手順で、asadmin を使ってリソースを作成します。なお、ホスト名は jackiel2 とします。管理サーバーのユーザー名、パスワード、ポートは、それぞれ admin、adminadmin、4848 とします。</p> <pre data-bbox="239 1045 1255 1154">asadmin create-jdbc-connection-pool --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin jdbc-simple-pool --datasourceclassname com.pointbase.jdbc.jdbcDataSource --instance server1</pre> <pre data-bbox="239 1171 1255 1329">asadmin set --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin server1.jdbc-connection-pool.jdbc-simple-pool.property.DatabaseName=j dbc:point base:server://localhost/sun-appserv-samples</pre>

ID	要約
4747534	<p data-bbox="321 243 1299 303">lifecycle-multithreaded サンプルアプリケーションでは、管理ユーザーのパスワードを 8 回も入力しなければならない</p> <p data-bbox="321 321 1299 407">asant deploy コマンドを使ってサンプルアプリケーションファイル lifecycle-multithreaded.jar を配備する場合、管理ユーザーのパスワードを 8 回入力する必要があります。</p> <p data-bbox="321 425 399 451">解決法</p> <p data-bbox="321 468 542 494">解決法はありません。</p>
4748535	<p data-bbox="321 520 699 546">その他のサンプルファイルの問題</p> <ol data-bbox="321 564 1285 685" style="list-style-type: none">1. Logging サンプルの 4 番目のログオプションで複数のログファイルが生成される2. Logging サンプルには余計な log.properties ファイルが含まれている3. サンプルのマニュアルに記載されているセキュリティに関する説明が一部間違っている <p data-bbox="321 703 399 729">解決法</p> <ol data-bbox="321 746 1285 807" style="list-style-type: none">1. ハンドラを閉じてから削除します。GreeterServlet.java 内の initLog() メソッドを参照してください。 <pre data-bbox="321 824 878 1085">private void initLog(String log_type) { // Remove all handlers Handler[] h = logger.getHandlers(); for (int i = 0; i < h.length; i++) { h[i].close(); //must do this logger.removeHandler(h[i]); } ... }</pre> <p data-bbox="321 1102 1142 1163">さらに、append オプションを指定してファイルハンドラを開きます。GreeterServlet.java 内の addHandler() メソッドを参照してください。</p> <pre data-bbox="321 1180 956 1206">Handler fh = new FileHandler(log_file, true);</pre> <p data-bbox="321 1223 664 1249">の行を次の内容で置き換えます。</p> <pre data-bbox="321 1267 878 1293">Handler fh = new FileHandler(log_file);</pre> <ol data-bbox="321 1310 1285 1536" style="list-style-type: none">2. build.xml ファイルを次のように編集します。<pre data-bbox="321 1362 1178 1466">< fileset dir="\${src.docroot}" excludes="cvs,annontation"/> < fileset dir="\${src.docroot}" excludes="cvs,annontation,log.properties"/></pre>3. 「Running the Sample Application」の節で、server.policy ファイルにセキュリティ許可エントリを追加する方法の説明から domains/domain1/ を除去します。

ID	要約
4752731	<p>PointBase 4.3 の PointBase 4.4 への置き換え</p> <p>サンプルとともに PointBase をダウンロードし、インストールする手順の説明 (http://hostname:port/samples/docs/pointbase.html) に、PointBase 4.3 という記述があります。正しくは PointBase 4.4 です。</p> <p>解決法</p> <p>「Update Samples Ant Files」の節では、pbtools43.jar ファイルと pbclient43.jar ファイルの代わりに pbtools44.jar ファイルと pbclient44.jar ファイルを使用してください。</p> <p>「Starting PointBase」の節は、UNIX プラットフォーム上に個別にダウンロードし、インストールする PointBase について説明しています。ここで、PointBase の起動には、<code>pointbase_install_dir/tools/server/start_server</code> を使用してください。</p>

ORB/IIOP リスナー

この節では、ORB/IIOP-Listener に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4743366	<p>server.xml ファイル内の iiop-listener 要素の address 属性には ANY を指定できない</p> <p>デフォルトの設定では、Sun ONE Application Server の iiop-listener 要素のアドレス値は 0.0.0.0 です。このデフォルト設定は、IPv6 インタフェース上で待機しません。システムの IPv4 インタフェース上で待機するだけです。iiop-listener の address 要素の値を ANY にすると、サーバーはシステム上の全インタフェース (IPv4 または IPv6) で待機できますが、この機能はサポートされていません。</p> <p>server.xml ファイル内の iiop-listener 要素の address 属性値を ANY にすると、システムの全インタフェース上での待機が可能になり、IPv4 インタフェースと IPv6 インタフェースが両方ともサポートされます。</p> <p>解決法</p> <p>IPv4 インタフェースと IPv6 インタフェースで、iiop-listener 要素の address の値を ":" にします。この方法は、Solaris 8.0 以上にのみ適用可能です。</p>

ID	要約
4743419	<p data-bbox="318 239 1300 300">IPv6 アドレスの DNS アドレス検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは RMI-IIOP クライアントが機能しない</p> <p data-bbox="318 322 1300 378">IPv6 アドレスの DNS 検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは、RMI-IIOP (Remote Method Invocation-Internet Inter-ORB Protocol) のクライアントが機能しません。</p>
	<p data-bbox="318 395 396 420">解決法</p> <p data-bbox="318 442 1300 499">IPv6 アドレスを検索できるように、配備サイトに DNS (Domain Name Service) を設定します。</p>
4810199	<p data-bbox="318 517 1300 578">Sun ONE Application Server 7.0 Standard Edition にバンドルされている最適化した CORBA Util delegate をデフォルトで使用できない</p> <p data-bbox="318 600 1300 682">Sun ONE Application Server のデフォルトのインストールでは高パフォーマンス CORBA Util delegate を使用できません。その結果、JDK バンドル版あるいは Sun ONE Application Server バンドル版の ORB を使用すると、パフォーマンスが著しく低下します。</p> <p data-bbox="318 704 1300 784">詳細については、『Sun ONE Application Server Performance Tuning Guide』の「ORB のチューニング」モジュールにある「優れたパフォーマンスの CORBA Util Delegate クラス」セクションを参照してください。</p>
	<p data-bbox="318 802 396 826">解決法</p> <p data-bbox="318 848 1300 939">高パフォーマンス CORBA Util Delegate 実装を使用可能にすると、パフォーマンスが著しく向上します。Sun ONE Application Server 設定ファイルの <code>server.xml</code> に次のコマンドを追加します。</p> <pre data-bbox="318 956 1300 1010"><jvm-options>-Djavax.rmi.CORBA.UtilClass=com.ipplanet.ias.util.orbutil.IasUtilDelegate</jvm-options></pre>
4847269	<p data-bbox="318 1027 1300 1060">J2SE 1.3.1_X クライアントが Sun ONE Application Server 7 と通信できない</p> <p data-bbox="318 1083 1300 1138">J2SE 1.3.1_X クライアントが Sun ONE Application Server 7 と通信しているときに、クライアントがコアダンプします。</p> <p data-bbox="318 1156 396 1180">解決法</p> <p data-bbox="318 1203 1300 1225">このクライアントには、J2SE 1.3.1_04 を使用してください。</p>

国際化 (i18n)

この節では、国際化に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4761017	<p data-bbox="239 383 996 406">Solaris バンドル版の場合：管理インターフェイスが英語で表示される</p> <p data-bbox="239 430 1225 487">Solaris バンドル版には、管理サーバーインスタンス用の言語エントリがないので、Sun ONE Application Server のローカライズ版では管理インターフェイスも英語で表示されます。</p> <p data-bbox="239 510 315 532">解決法</p> <p data-bbox="239 557 943 579">server.xml ファイルに手動でロケールのエントリを設定します。</p>
なし	<p data-bbox="239 602 972 624">Solaris では Netscape 4.79 ブラウザに関連して、次の制限がある</p> <ul data-bbox="239 649 1225 775" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 649 1225 706">• Solaris で Netscape 4.79 を使用すると、ローカライズされた JavaScript メッセージが文字化けします。JavaScript では UTF-8 エンコードを処理できません。<li data-bbox="239 723 1225 775">• Chinese GB18030 ロケールの Solaris で Netscape 4.79 を使用しても、GB18030 文字を使用できません。 <p data-bbox="239 798 315 821">解決法</p> <p data-bbox="239 845 1225 899">Sun の Web サイトから Solaris 版の Netscape 6.23 または 7.0 をダウンロードします。これで両方の問題が解決します。</p>

マニュアル

この節では、マニュアルに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4839719	<p data-bbox="315 378 1332 407">『Developer's Guide to Web Applications』 : cookieName プロパティの説明が紛らわしい</p> <p data-bbox="315 425 1332 546">『Developer's Guide to Web Applications』の sun-web.xml ファイルを説明している箇所に、cookie-properties サブ要素の cookieName プロパティの説明があり、cookieName プロパティの値をデフォルト値から変更できるように解釈できます。しかし、この値は変更できません。常に JSESSIONID でなければなりません。</p> <p data-bbox="315 564 392 593">解決法</p> <p data-bbox="315 611 542 640">解決法はありません。</p>
4720171	<p data-bbox="315 651 1332 680">インデックス付き配備ディレクトリの使用方法を説明したマニュアルがない</p> <p data-bbox="315 697 1332 906">配備済みアプリケーションのディレクトリ名のナンバリングスキーマ部分は、開発者が配備済みアプリケーションに関連付けられた JAR ファイルやクラスファイルを変更するときに使用するインデックス機構として実装されています。Windows プラットフォームでは、このインデックス機構が重要な役割を果たします。Windows プラットフォームでは、読み込み済みのファイルを上書きしようとするすると共有違反エラーが発生するため、読み込み済みのファイルはロックされます。ファイルは、セッションの起動時にサーバーインスタンスや IDE に読み込まれます。共有違反エラーが発生した場合、次のいずれかの措置をとります。</p> <ul data-bbox="364 923 1332 1119" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="364 923 1332 1045">• 更新されたクラスファイル (元々は JAR ファイルの一部) をコンパイルし、古いクラスよりも先に読み込まれるようにクラスパス内に配置します。次に、Sun ONE Application Server を使ってこのアプリケーションを再読み込みします (再読み込みが有効な場合)。 <li data-bbox="364 1062 1332 1119">• JAR ファイルを更新し、新しい EAR ファイルを作成して、アプリケーションを再配備します。 <p data-bbox="315 1137 1332 1201">注: Solaris プラットフォームでは、ファイルロックの制約がないため、アプリケーションを再配備する必要はありません。</p> <p data-bbox="315 1218 392 1248">解決法</p> <p data-bbox="315 1265 1332 1409">IDE の設定、ANT ファイルのコピー、コンパイルその他の操作を行うために Windows プラットフォーム上の配備済みアプリケーションに変更を加えるときは、ファイルロックの制約を回避するため、新しく作成されるディレクトリのインデックス番号が増分する点に注意してください。次に例を示します。Solaris プラットフォームでは、J2EE アプリケーション helloworld は、次のディレクトリ構造で Sun ONE Application Server に配備されます。</p> <p data-bbox="315 1426 1332 1456">appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_1</p>

ID	要約
(続き)	<p>さらに、この配備済みアプリケーションの一部をなすサーブレット (HelloServlet.java など) に変更が加えられます。Sun ONE Studio IDE が起動し、このサーブレットのソースファイルが変更され、コンパイルされます。このとき、javac ターゲットには上記のディレクトリが設定されます。ソースのコンパイル結果が適切な場所に格納されていれば、このアプリケーションの再読み込みファイルが存在しています。また、server.xml の再読み込みフラグは true に設定されています。サーバーインスタンスの実行時は、アプリケーションを再アセンブルして再配備しなくても変更内容が有効になります。</p> <p>Windows プラットフォームでは、ファイルロックの問題により、JAR ファイルやクラスファイルの交換や更新は行えません。この場合、次のいずれかの措置をとります。</p> <ul style="list-style-type: none">• ソースの変更を有効にするには、変更済みソースファイルをコンパイルし、クラスパス内のクラスファイルまたは JAR ファイルを挿入します。• helloworld ソースに変更を加え、アセンブルし、再配備します。以前に配備した helloworld はそのままにしておきます。 <p>2 番目のオプションは、配備済みアプリケーションのディレクトリ名に付加されている増分されたインデックス番号を使用します。したがって、こちらの方式のほうが優先されます。2 番目の helloworld の配備のあと、ディレクトリ構造は次のようになります。</p> <pre>appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_1 appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_2</pre> <p>2 番目の helloworld は helloworld_2 の下に配備されます。</p>
4870888	<p>製品に付属の『Getting Started Guide』が間違っている</p> <p>製品に付属の『Getting Started Guide』に、プラットフォームとサイズに関して間違った説明が記載されています。また、このガイドは 508 に完全には準拠していません。</p> <p>解決法</p> <p>プラットフォームとサイズに関する正しい情報については、『Installation Guide』または『プラットフォームの概要』を参照してください。508 に準拠した『Getting Started Guide』については、次の URL にあるマニュアルを参照してください。</p> <p>http://docs.sun.com</p>

ID	要約
4875280	<p data-bbox="318 239 771 269">オンラインヘルプに間違っただ説明がある</p> <ul data-bbox="318 291 642 321" style="list-style-type: none">• <code>asprfhls.html</code> ファイル <p data-bbox="318 338 1292 395">SSL3 が有効になっているかどうかを確認します。管理目的の場合は、SSL2 の選択を解除して TLS だけを使用することを推奨します (ファイル名は <code>asprfhls.html</code>)。</p> <p data-bbox="318 413 1128 442">ブラウザで TLS がサポートされていない場合は、SSL3 を選択してください。</p> <p data-bbox="318 460 685 489">この説明を次のように変更します。</p> <p data-bbox="318 506 1292 564">SSL3 が有効になっているかどうかを確認します。管理目的の場合は、SSL3 の選択を解除して TLS だけを使用することを推奨します。</p> <p data-bbox="318 581 1128 611">ブラウザで TLS がサポートされていない場合は、SSL3 を選択してください。</p> <ul data-bbox="318 628 642 657" style="list-style-type: none">• <code>asprflo.html</code> ファイル <p data-bbox="318 675 499 704">コンソールを作成</p> <p data-bbox="318 722 1292 779">(Window のみ)。チェックマークを付けると、<code>stderr</code> 出力のためにコンソールウィンドウが作成されます。</p> <p data-bbox="318 796 685 826">この説明を次のように変更します。</p> <p data-bbox="318 843 499 873">コンソールを作成</p> <p data-bbox="318 890 1292 947">(Windows のみ)。チェックマークを付けると、<code>stderr</code> 出力のためにコンソールウィンドウが作成されます。</p>
4879044	<p data-bbox="318 954 956 984">『Administrator's Guide』 : コンパイラパスを適用できない</p> <p data-bbox="318 1001 1292 1058">Update 1 の『Sun ONE Application Server Administrator's Guide』の 198 ページで、次の説明が間違っています。</p> <pre data-bbox="318 1076 913 1105">CC=/usr/dist/share/devpro/5.x-sparc/bin/cc</pre> <p data-bbox="318 1123 1292 1180">上のパスは Sun の内部パスです。コンパイラのデフォルトインストールディレクトリには、次のパスを指定する必要があります。</p> <pre data-bbox="318 1197 499 1227">/opt/SUNWspr</pre>
4884043	<p data-bbox="318 1241 1256 1298">『Configuration File Reference』 : 転送ファイルパラメータのデフォルト値の説明が間違っている</p> <p data-bbox="318 1315 1292 1373"><code>nsfc.conf</code> ファイルの <code>TransmitFile</code> パラメータのデフォルト値が、マニュアルで次のように記述されています。</p> <pre data-bbox="318 1390 471 1420">(Unix の場合)</pre> <pre data-bbox="318 1437 542 1466">TransmitFile=off</pre> <p data-bbox="318 1484 1292 1541">この記述は間違いです。「転送ファイル」チェックボックスはデフォルトで「有効」になっています。</p>

ID	要約
4890285	<p data-bbox="239 239 1106 263">一部のマニュアルで Solaris x86 プラットフォームの説明が更新されていない</p> <p data-bbox="239 288 1225 374">Sun ONE Application Server をサポートしているプラットフォームの一覧がマニュアルに記載されていますが、Solaris x86 プラットフォームの説明が含まれていないことがあります。最新のプラットフォームの説明は、『プラットフォームの概要』を参照してください。</p> <p data-bbox="239 392 1225 479">『Getting Started Guide』: インストールプログラムで利用できる評価版 (高速) インストールについて説明しています。このインストールオプションは、Solaris x86 プラットフォーム上の Sun ONE Application Server には使用できません。(第2章の25ページ参照)。</p> <p data-bbox="239 496 1225 583">『Developer's Guide to NSAPI』: マニュアルで SPARC に言及する箇所は、Solaris にする必要があります (Solaris には SPARC と x86 が含まれます)。158 ページと 159 ページで、SPARC を指定しないでください。</p> <p data-bbox="239 600 315 624">解決法</p> <p data-bbox="239 649 1225 736">このリリースに関する Solaris x86 の制限事項については、8 ページの「Solaris x86 の制限事項」を参照してください。上記のマニュアルでは、これらの制限事項が記載されていないことがあります。</p>
4896094	<p data-bbox="239 753 1225 777">『Administrator's Guide』: インストール時に ACC_CONFIG 変数を設定する手順が必要</p> <p data-bbox="239 802 1225 913">『Administrator's Guide』には、ドメインとサーバーインスタンスを作成した後に、ACC_CONFIG 変数を設定するための手順が記載されていません。『Sun ONE Application Server Administrator's Guide』の「Deploying Application」節の後に、次の説明を追加する必要があります。</p> <p data-bbox="239 930 1225 1079">上記の手順以外に、asenv.conf ファイルを変更する必要があります。ドメインを作成したら、AS_ACC_CONFIG 変数の値を server_instance_config ディレクトリの sun-acc.xml ファイルに設定します。この値が正しく設定されていないと、Application Client Container (ACC) に関連するアプリケーションを実行しているときに、エラーが発生する場合があります。次に例を示します。</p> <pre data-bbox="239 1097 1225 1149">AS_ACC_CONFIG=/var/appserver/domains/domain1/server1/config/sun-acc.xml</pre> <p data-bbox="239 1173 978 1197">server1 は、作成したアプリケーションサーバーのインスタンスです。</p>

ID	要約
4913611	<p data-bbox="317 239 873 267">J2EE 仕様の互換性の問題について記載されていない</p> <p data-bbox="317 284 1285 343">『Developer's Guide to Web Applications』: 次の記述が <code>delegate</code> 属性の説明に適用されません。</p> <p data-bbox="317 361 1308 506">「<code>delegate</code> フラグがデフォルト値の <code>false</code> に設定されている場合には、クラスローダの委託動作は Servlet 2.3 仕様のセクション 9.7.2 に準拠します。 <code>true</code> に設定されている場合には、コンテナ全体の JAR ライブラリファイルに含まれるクラスとリソースが、WAR ファイル内にパッケージ化されているクラスとリソースより優先して読み込まれます。この動作は、Servlet 2.3 仕様の推奨に準拠していません。</p> <p data-bbox="317 524 1302 638">移植性のあるプログラムで <code>delegate</code> フラグが使用されている場合は、それらのプログラムを J2EE 仕様に準拠しているクラスやインタフェースと一緒にパッケージ化しないでください。WAR ファイル内のプログラムにそのようなクラスやインタフェースが含まれる場合、そのプログラムの動作は定義されていません。」</p> <p data-bbox="317 656 1308 715">『Developer's Guide および Developer's Guide to Enterprise JavaBeans Technology』: 次の記述が参照渡し of 要素の説明に適用されます。</p> <p data-bbox="317 732 1299 819">「<code>pass-by-reference</code> フラグがデフォルト値の <code>false</code> に設定されている場合には、リモートインタフェースを呼び出す引数を渡す方式は EJB 仕様のセクション 5.4 に準拠します。 <code>true</code> に設定されている場合には、リモート呼び出しでは値渡しではなく参照渡しが使用されます。</p> <p data-bbox="317 836 1299 951">移植性のあるプログラムは、リモート呼び出しのときにオブジェクトのコピーが作成される際には元のオブジェクトを変更しても安全である、という前提で記述しないでください。また、コピーが作成されないときには、元のオブジェクトに対する変更に対して呼び出す側と呼び出される側がアクセスできる、という前提で記述しないでください。</p> <p data-bbox="317 958 1296 1041"><code>pass-by-reference</code> フラグが設定されているときには、パラメータと戻り値は読み取り専用とみなされます。そのようなパラメータや戻り値を変更するプログラムの動作は、定義されていません。」</p>
4915451	<p data-bbox="317 1058 1145 1086">『Administrator's Guide』の <code>idle-timeout-in-seconds</code> の定義が間違っている</p> <p data-bbox="317 1104 1288 1163">『Sun ONE Application Server Administrator's Guide』の第 6 章「Monitoring the Sun ONE Application Server」に、<code>idle-timeout-in-seconds</code> の定義に次の文が含まれています。</p> <p data-bbox="317 1180 1302 1267">現在のサイズが <code>steady-pool-size</code> より小さい場合、<code>min(current-pool-size+pool+resize-quantity,max-pool-size)</code> を上限として、<code>pool-resize-quantity</code> 分だけ大きくなります。</p> <p data-bbox="317 1284 759 1312">この記述は次のように変更してください。</p> <p data-bbox="317 1329 1299 1416">現在のサイズが <code>steady-pool-size</code> より小さい場合、<code>min(current-pool-size+pool-resize-quantity,max-pool-size)</code> を上限として、<code>pool-resize-quantity</code> 分だけ大きくなります。</p>

問題の報告方法

ご使用のシステムに問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でカスタマサポートにお問い合わせください。

- 次のオンラインサポート Web サイトをご利用ください。
<http://www.sun.com/supporttraining/>
- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

サポートのご依頼の前に、次の情報を用意してください。サポート担当がお客様の問題を解決するために必要な情報です。

- 問題が発生した箇所や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および、問題の原因と思われるパッチやそのほかのソフトウェアなどの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログやコアダンプ

詳細情報について

Sun ONE についての有益な情報は、以下のインターネットアドレスから入手することができます。

- Sun ONE 製品とサービス情報
<http://jp.sun.com/service/sunps/sunone/index.html>
- Sun ONE 開発者情報
<http://jp.sun.com/software/sundev/>
- Sun ONE トレーニングソリューション
<http://www.sun.com/supporttraining/index.html>
- Sun ONE 製品データシート
<http://jp.sun.com/software/>
- Sun Microsystems 製品マニュアル
<http://docs.sun.com/>
- Sun ONE Application Server 製品マニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv?l=ja>

改訂履歴

この節では、Sun ONE Application Server 7 製品の初期リリース後に、このリリースノートで変更が加えられた箇所について示します。

改訂日付	変更の詳細
2003 年 10 月	Sun ONE Application Server 7, Update 2 の初期リリース
2004 年 1 月	JDK 1.4.2 のサポートに関する追加情報

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Solaris、iPlanet、Java、および Java コーヒーカップロゴは、米国その他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。Sun ONE Application Server の使用は、本製品と共に提供されているライセンス使用許諾契約の条項に従うものとします。

